



アイデンティティ戦争

エイドリアン・エベンズ

アイデンティティ戦争

エイドリアン・エベンス

著作権 © 2021 Adrian Ebens

旧版からの更新

ISBN-13: 978-1-57258-668-0

議会図書館管理番号: 2011903965

Duracell®は Procter & Gamble Co.が所有し、米国およびその他の国で登録されています。この文脈から Duracell®への言及は、純粋に説明的な目的のためであり Duracell®ブランドやその親会社である Procter & Gamble との支持や提携を意味するものではありません。

示されていない限り、すべての聖書の句は新ジェイムズ王訳からです。

マラナタメディアによってオーストラリアで印刷されました。

Fatheroflove.info

adrian@identitywars.org

目次

第1部・二つの王国－失われたアイデンティティ

第1章. デュラセルの木.....	5
第2章. 生命の泉.....	16
第3章. 神様の心にすぐ近く.....	30
第4章. ファミリー王国.....	37
第5章. 家族の危機.....	43
第6章. この世の地獄.....	51
第7章. 天国のライフライン.....	65
第8章. 二つの王国の比較.....	76
第9章. バビロンの心臓.....	83

第2部・一つの運命－取り戻したアイデンティティ

第10章. デュラセルの連鎖を断ち切る.....	95
第11章. 天国の門を開く.....	109

第3部・息子の関係に戻る旅路

第12章. デュラセルによって動力源を与えられた生命.....	118
第13章. 天国への階段.....	125
第14章. 同じ神々、異なる名前.....	134
第15章. どのように読みますか?.....	147
第16章. もはやしもべではなく.....	154
第17章. バビロンの陥落.....	162

この本は

親愛なる父アベル

私に堂々と振る舞うこと、常に正直であること、
始めたことは最後まで終わらせること、
そして、決して不正を容認しないことを教えてくれた父に捧げられています。

親愛なる母エブリン

私に夢を持ち続けること、創造的であること、自然を愛し、
寛大であることを教えてくれた母に捧げられています。

親愛する妹カレン

子供の頃の旅路を私と共有し、
そして私を笑わせるためにしばしば
彼女の素早い機転を利かせてくれた、
妹に捧げられています。

第1部・二つの王国 －失われたアイデンティティ

第1章. デュラセルの木.

その部屋には、かすかに灯りがついていた。一方の壁には、何枚かのポスターとポップミュージシャンの写真が貼られていて、そしてたびたび憧れの現実のために渴望の窓口 として役割を果たしていた別のスポーツマンの写真があった。別の壁に沿って、机があり、その上には数冊の教科書が置かれていたが、この机の中心的特徴は、小型でありながらも強力なステレオシステムを持っていた。実に、ここは野望と激動、そうだ 見ている夢のすべての兆候を示したティーンエイジャーの部屋だった。

巨大な戦闘が、私の心の中で激しく繰り広げられていた。運命の戦い、真実の瞬間だった。"自分があんな事をするとは思ってもみなかった。"と床をじっと見つめながら私はつぶやいていた。私の自我概念は、厳しく試されていた。あまりの激しい戦いだったので、私は今刈り取ろうとしていた収穫物から自分の心を迂回させるために、以前に何度も助けてもらったポスターから快適さを求めた。

空気は絶望感の感覚に満ちていた。私の心は、邪魔された状態を安定させるためにトークンをつかんでいた。アカデミック・アスレチック・明確なのは、私がつかみ取っていたのはトークンの一部であったがしかし、それらは今では、私を助けるには無力そうに見えた。胸の悪くなるような雲が、私の上に降りてきて私を襲い、私の野望の感覚を絞り出し始めた。それは心の大切な場所を蹴り開け、そして彼らのその宝物を盗み、それからそれはすべての希望の最も神聖なチェンバーのために作られました。

私は、決してしないと私自身に約束した方法で母に話しかけていました。これは私がなりたいと思っていた人間ではないことに気づかせてくれた最後の一撃でした。私は自分が好きではなく、変わりたいと思っていましたが、それは絶望的に思えました。

うつ病。うつ病は、現在私たちの社会を悩ませている唯一最大の呪いです。世界保健機関では次のように述べています；

うつ病は、世界的に病気や障害の主な原因です。現在 3 億人以上の人々がうつ病を抱えて生活しており、2005 年から 2015 年の間に 18% 以上増加しています。¹

この問題の莫大さを、以下の 2011 年の統計から把握してみてください。

- 毎年 100 万人の自殺者が出ています。40 秒ごとに 1 人、つまり 1 日あたり 3000 人の割合で亡くなっています。
- 自ら命を奪う個人ごとに、少なくとも 20 回の試みが行われています。それは 1 日あたり 6 万人です。
- 世界的に見ると、自殺率は過去 50 年間で 60% 上昇しており、主に先進国で増加しています。
- 自殺者の 60% がアジアで発生しています。世界保健機関によると、中国、インド、日本は自殺者全体の約 40% を占めています。²

いったい何が起きているのでしょうか？ 何百万人もの人々が別の日に直面するよりも、むしろ死ぬことを選択するほど、人生においてそれほど憂鬱なのは何でしょうか？

¹ http://www.who.int/mental_health/management/depression/en/

² <https://www.medicalnewstoday.com/articles/234219.php>

フィリップ・デイは、彼の著書「マインド・ゲーム」の中で、次のように、非常に暴露的な声明を与えます。

過ぎ去った日々には、思いやりのある家族構成員たちが周りに集まって、落ち込んでいる親戚に安心感と注意を払って物事の話をしていました。今日では、家族単位の崩壊、宗教の不正、そして 21 世紀の慌ただしい生活の忙しいペースで、

多くの家族が互いに分離になっいて、精神分析は、かつては、面倒見の良い親戚もしくは近隣の聖職者によって実行されていたカウンセリングの仕事を、単に引き継いだけでした。このことが、私たちの社会に有害な影響を及ぼしたと、私は強く信じています。かつては、面倒見の良い親戚 もしくは近隣の聖職者によって行われていたカウンセリングの任務を、取り換えられて単に継いだけでした。このことが、私たちの社会に有害な影響を及ぼしたと、私は強く信じています。³

フィリップ・デー氏は 3 つの要因を挙げています。(1) 家族単位の分裂、(2) 宗教の中傷、(3) 21 世紀の慌ただしい生活による多くの家族の分離。最も重要な要因は、家族単位の分裂である。この主題についてコメントしているデビッド・ヴァン・ビーマ氏は、

³ フィリップ・デー <http://www.campaignfortruth.com/Eclub/100702/depressionandsuicide.htm>

次のように述べています。

類例を見ない世代が成人となって、その何百万人もの人々が深い早めの悲しみによって痕跡をつけられてきました。彼らは離婚家庭の子供たちです。彼らは終わりが無いように見えるファランクス⁴の先頭に過ぎません。⁴

ジム・コンウェイ氏は、彼の著書『法的小よび感情的な離婚のアダルトチルドレン』の 中で、家族の崩壊によって法的または感情的にも苦しんできた何千人もの人々が被った痛みと喪失について、鮮明に説明しています。彼が説明する主な属性の一つは、不安と " 私は誰ですか？ " という絶え間ない質問です。そして " 私は愛される価値があるのか？ " ⁵

これらの質問は、まさに人間のジレンマの源泉である、意義の感覚へと 駆り立てられます。

誰かが本当に私のことを気にしていますか？ 私は何か価値がありますか？これらの質問は、

どのようにして人間の精神に自分自身を埋め込むようになったのでしょうか？その質問に

答えるには、私たちは最初に戻る必要があります。

⁴ デビッド・ヴァン・ビーマ "Learning to Live with a Past that Failed," People, May 29, 1989, p 79

⁵ ジム・コンウェイ 『成人の法的または感情的離婚の子供たち』 (Monarch Publications, 1990) p 53.

突然、エバは禁じられた木を見つめている自分を見つけた。なぜ " 神は私たちにこの木から

食べるのを禁じられたのですか？ " と彼女は不思議に思いました。果物はとても魅力的に

見え、彼女を手まねで前へと招きました。突然、彼女は木から聞こえてくる声を聞きました。

サタンは自分の機会を見て、ヘビの媒体を通して、彼女を誘惑します。

「"園にあるどの木からも取って食べるなど"、ほんとうに神が言われたのですか？」⁶ サタンはエバに討論を促すとともに、御神の言葉の文字通りについて彼女の心の中に疑いを投げかけています。議論と論理の領域で、エバはサタンには敵いません。これに、サタンの欺瞞と暗闇のなじみのない武器まで加えると…またエバが彼女の口を開くことによって進んで関与する意思表示をするとそのコンテストは荒廃的に短くなるでしょう。

「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました。」⁷ エバは、神が語られた言葉を繰り返すことでその挑戦を受け入れますが、しかし、彼女は今、深刻な苦境に立たされています。彼女自身の好奇心は、サタンの冒頭の挑戦と相まって、「あなたがたは決

⁶ 創世記 3:1

⁷ 創世記 3:2,3

して死ぬことはないでしょう。」⁸ という彼の次の顎の落としの声明に対して彼女は準備していないままにしました。

「友好的」な討論という脈絡の中で誰かと会話をしていて、対戦相手が"予期せぬ所"から 何かを落として来るまでは、比較的状况をコントロール出来ていると感じていたことはありませんか？あなたが全く予測もしなかった何か、あなたの心の中で渦巻いているきめ細かく油を注いだ歯車にスパナを投げ込みそれらを停止させる何かを？彼らが言ったことは、深く 深遠で啓発的なものでもありませんでしたが、しかしあなたはそれが彼らから来るとは思ってもませんでした。彼らがそのような言葉をこれほど大胆かつ露骨に発する可能性は、あなたに生じたことは決してありませんでした。

サタンは、今や獲物を壊滅的な精密さで固定化されているのを見て、勝利の一撃を命中させた。『それを食べると、あなたがたの目が開け神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。』⁹

このくつかの数節は、小さな田舎町を通り抜けるようなものです；まばたきをすると皆さんはそれらを見逃してしまいます。サタンがエバに紹介したコンセプトには、今やアダムの全ての子どもたちを悩ませている呪いの種 - それは、意義のための闘争が含まれていたのです。

⁸ 創世記 3:4

⁹ 創世記 3:5

解放されたように聞こえる概念は、人間の魂を惨めな不幸と暗闇の中で奴隷にしている鎖の実体そのものを提供している。ちょっと大げさに聞こえますか？『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。』という概念を解き出す間、私と一緒にいてください。そして、それを引き起こすに当たって、その果実と口やかましい質問を引き起こす役割を見てみましょう。"誰かが私のことを気にしてくれているの？"そして"私は愛される価値があるの？"

私が8歳くらい頃、私の妹は泣いたり笑ったり、そしてミルクまで飲むことさえする人形を受け取っていたのを覚えています。あなたがすべきことはバッテリー2, 3本を、その背中に差し込んで動かす事がありました。それは私の妹に何時間ものエンターテインメントを提供しました。しばらくすると妹の泣き声がとても煩わしくなり、私は犬にそれを食わせてあげたいと思ったが、妹の泣き声を1時間も聞きたく無かったので、私は良いほうに考えました。この赤ちゃん人形は、単に背中にバッテリー2本を入ただけで命を得た事ですが、これがまさにサタンがエバに近づこうとしていたアイディアなのです。エバ、あなたは他の誰かが何を言おうと心配する必要はない、あなたは自分自身の中に命を持っているのだから。あなたはお好みに従ってすることができ、あなたは何の害を被ることはないです。それはあなた自分自身の中に命を持っているので… あなたは決して死ぬことはないですし、そしてあなたがバッテリーを充電するために、この木に戻ってくる限りあなたは大丈夫でしょう。

あなたは、生後18カ月の赤ちゃんが、両親にこう言っていると想像することができたでしょうか？ "私は、今や自分の力でやれると思う。ち

ようど裏庭にある庭のノーム(庭の装飾用小人像)と話をしていたところ、彼曰く、私は私の内部に力を持っていて、それが私を生かし 続け、そして私のすべての必要を提供するだろうと、それであなたのすべての助力に感謝し、そして、多分、私たちはいつかは追いつくでしょうと。" これは正確に園でアダムとエバに起こったことです。この、あなたがたは決して死ぬことはないでしょうと言う概念は、天国の父に対する彼らの総体的な依存の感覚を破裂させてしまいました。それは彼らが個人として何者であるかという、基礎そのものを攻撃したたのであります。それは彼らのアイデンティティの感覚を、結果的には、御神の子供としての彼らの価値を混乱させました。なぜ、アダムとエバは単に彼らの間違いを悟ることができずに、天の父に完全に依存する立場に戻る事が出来てなかったのでしょうか？私はそれが単純なことであればいいのですが、あなた自身の中に力を持っているので、あなたがたは決して死ぬ事はないでしょうという、概念を抱擁した結果、たとえ一秒であっても、あなたが御神との霊的交わりがあった、元の至福の状態へと戻る事を防ぐのに瞬間的な効果があるのです。私たちは、後ほどこの問題についてさらに話しますが、まず、その運命的な木に戻りましょう。

彼らがこの実を食べると、どういうわけか彼らの目はより高い存在状態に開かれるだろうと言う サタンの提案に注目してください。ここでの推論は、あなた自分自身の中に力を持っているだけでなく、その物質的宇宙には強力な物体が含まれていて、あなたが一度所有すると、あなたを なおいっそう強力にできます。物質界へようこそ。

創世記 3:4,5 では、サタンは彼の新しいユートピア王国への転換を獲得するために、彼は本格的な福音主義的モードになっています。彼はそ

れを包容するすべての人に力と満足を約束した王国を提供します。この王国は二つの核心原則に基づいています。

1. あなたは自分自身の中に命を持っていて、対外的な任意の恩人や権威から全面的に独立しています。
2. 私たちの環境には、オブジェクト、人、物事が含まれており、それがもし所有 または関連付けられていると、私たちをより強力に、より啓発的に、より人生に 達成感をくれます。

この知識の樹を通して、サタンは、バッテリー駆動の存在を提供していました; 外部の任意の 恩人や権威を必要としない生活、このゆえに、この章のタイトルはデュラセルの木です。サタンは、 私たちがもし彼の人生哲学に従えば、われわれのからだの細胞は常に耐久性を持つだろうと私たちに言うでしょう。

アダムとエバが木の実を食べた時、その中には彼らを恐れ、罪深く、反抗的になるような毒が 内在していなかった事を覚えておくことが重要です。聖書は私たちに言います。その木を見ると、それは食べるに良く...』¹⁰ その 毒はサタンがエバに話した言葉でした。その毒は彼の王国の原則である。一部の人々は質問を提示します "アダムとエバが実を食べたのに、どうして私は苦しまなきゃいけないの？ " 私はその木から食べたのではない。真実は、私たちが神から独立して行動するた

¹⁰ 創世記 3:6

びに、私たちはアダムとエバが行った、それと全く同じ方法で、その木を食べることなのです。なぜなら、私たちがサタン王国の毒を飲み込んでしまったからです。実際に、私たちは実際に毎日この木から食べることを習った。その結果、恐ろしい消化不良に苦しんでいるのです。

私たちが、神様と離れて暮らす事ができるだろうという考えは、たくさんの人にとっては、それほど奇妙に思えないかもしれませんが、次の章では私たちの、このようなタイプの考え方は自殺的であることを学べます。

第 2 章. 生命の泉

仕事で長い一日でした。私たちは予算作成の最終段階に入っていました。実は約 90 件の予算を 1 つに統合しなければならなかった。それは野心的な経営者達の間で、利用可能な収入を分かち合うという微妙な過程だった。それぞれ彼らは目標を達成するためにパイのより大きな切れを 望み、期待、しかも要求さえしていた。私の心は、このすべての数値を私の頭から押し出そうと必死になっていたが、突然電話が鳴った。" もしまし…パパたよ、息子 " パパの声はアンパイア・ステート・ビルを肩に背負ったかのようによく聞こえた。" パパ何があったの？ " "ママが重大な自動車事故に遭ったんだ。" それらの言葉はスレッジハンマーのように私に打撃を与えた。私はすぐに揺れ始め、私の心拍数は一瞬にし、文字通り二倍となった。アドレナリン・イグサが私の体を 引継ぎ私の筋肉は緊張した。"事故？" 私はしっかりとそれを安定した状態に保とうとし

て、電話に向けほとんどささやきたした。"どれくらい深刻なの？"
"かなり深刻だよ、息子"

その瞬間、私はその電話を通り抜けジャンプをし、ただ私のパパにしがみつくことができた。よかったのにと思ったが、パパは車で12時間も離れたところにおいて、私は飛行機に乗るためには朝まで待たなければなりませんでした。私が電話を切ったとき、私の心はぐるぐる回っていて、衝撃、恐怖、しびれすべてが一度に私を襲いました。ちょうどその時、私はイエス様のことを思い出して、私は直ちにひざまずいて叫んだ。"ああ、イエス様、どうか彼女を死なせないで下さい。と"私は聖書を開いて、穏やかな感覚が私の上に訪れるまでに、ただ祈り、祈るだけで、私はほとんど平和を感じました。それから私の心はそれが再び私を襲うまで、ありふれた人生の事柄にさ迷いました。恐怖感、無力感、そして衝撃。私は繰り返し、ひざまずいてただ祈ってイエスにしがみつきました。

ママは音楽のレッスンを教えに行く途中で旅をしていました。彼女は2つの道路の間に10メートルのガーデニングストリップがある二車線の高速道路にいました。彼女はちょうど別の車を通過して、丘の頂上を越えていたのですが、それが彼女の記憶の全てでありました。反対側の車一台が統制力を失い二つの道の間10メートルの間隔を横切ってきて、ママの正面から衝突しました。衝撃の力はママの車のエンジンをファイアウォールに押し付けながら通過させると同時にハンドルを彼女の顔にまっすぐ押し込んだのであった。なにかの未知の理由により、その瞬間シートが壊れ、それが私

はとてもありがたかった。そうでなければ彼女は即死したことでしょう。彼らが彼女を病院に運ばれた時、彼女は腕と脚を骨折していて、顔の左側全体が崩壊していました。

母が病院へと運び込まれた時、ちょうど交代勤務を終えた医師がいました。彼が私の母の姿を見たとき、直ちに仕事にとりかかりました。彼は彼女の命を救うために8時間も戦いましたしそして、ようやく多くの緊張した瞬間の後、彼女は安定してきました。私は本当にあの医者先生に感謝すべき言葉が何も見つからないです；今でも、それは私に涙をもたらせてくれます。その人は16時間も働き続けてそれから思慮深くも深夜3時に私のパパに電話をかけて、母は批判的だが安定であることを知らせてくれました。私は今でも非常に彼に対し感謝していて、それは医療専門家の技術と強さ、優しさの輝く事例です。

数日後、私と妻は集中治療室でママと一緒にいました。私は彼女が生きているのを見てとてもとても幸せでした。医師たちは彼女の回復率に驚いていました。私たちは彼女がもう二度とピアノを弾くことも、まだもう二度と歩くことすらできないかもしれないと言われました。それは大変な打撃でした、しかし、彼女はまだ私たちと一緒にいて、私はありがたかったです。ロレルは母のために医学日記エントリーを見ていて、私にそちへと来るよう手招きしました。それは彼らが失うだろうと彼らが思った明確なポイントを示しましたが、その後突然にすべてのバイタルサインが回復して彼女は安定しました。これがどのように起こったかの説明はありませんでした

が、それは生命の源である私の父は彼女を支えるために神様のみ子を遣わしてくださったことを私は知っていました。私はイエス様の、生命を与える力に感謝の気持ちでいっぱいです。今日、ママは歩いていますし、そして

時々彼女がピアノを演奏するとき、母を確実な死から救ってくださいました イエス様への深い感じの感謝の気持ちが湧いてきます。

生命の源を理解することになると、聖書は私たちに何の疑いを残しません。私たちはコロサイの信徒への手紙でイエス様について、次のように読みます。

『万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、**みな御子にあって造られたからである**。これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。(17) 彼は万物よりも先にあり、**万物は彼にあって成り立っている**。』

コロサイの信徒への手紙 - 1:16,17

私たちが見たり、または知覚することもできるすべてのもの、そしてわれわれが見ることが出来ないものさえ創造され、現在イエス・キリストによって維持されています。¹¹最後の文章の文言を注意深く

¹¹ "すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです。"
歴代誌上 29:14

見てみましょう。万物は彼にあって成り立っている。本文はわれわれに御神のみ子から出てくる生命力が全宇宙を握っていることを明確に示しています。パウロはそれを使徒言行録で別の言い方をしています：

この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。(25) また、何か不足でもしておるかのよう、人の手によって仕えられる必要もない。**神は、すべての人々に命と息と万物とを与え、**また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに**時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。**(27) こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、**神はわれわれひとりひとりから遠く離れておいでになるのではない。**(28) **われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。**あなたがたのある詩人たちも言ったように、"われわれも、確かにその子孫である。" 使徒言行録 17:24-28

私たちはここで、私たちの命と親密に関与してくださる御神を見ます。パウロは全体像から始めてから、個人的で親密なレベルであるゼロにまで下げていきます。

1. 彼はすべての国の時代と場所を決めてくださいました。
2. 彼はわれわれ一人一人から遠く離れてはいない。
3. …そして最後にパウロは問題の核心に直行し、その方のうちにわれわれは 生き、動き、存在していると言っています。

もし私たちが彼のうちで生きているのならば、その単純な論理は、彼なしではわれわれは生きられないということを教えてくれます。御神の神性な代表としての御神のみ子であるイエス様は "…わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。"¹² と言いました。どうぞこれは、われわれには彼なしでは肉体的に、精神的に、靈的にも何もすることができないということを意味すると理解してください。私たちは、まるで小さな赤ちゃんが親に依存しているように、すべてのことを御神とそのみ子に全面的に依存しているのです。

その意味が非常に広範囲まで及んでいるために、この点について説明しましょう。心臓の 驚くべき器官を思慮しましょう。それは数十年もの間、休むこともなく、私たちの体の全体に血液を循環させるポンプとしての役割を果たしています。心臓の驚くべき点は、心臓の 脈動はそれ自体の外側にある何にかによって助けられているようには見えないということです。心臓の筋肉は、神経系から任意

¹² ヨハネによる福音書 15:5

の直接的な刺激なしに収縮し、リラックスすることができます。それは、いわゆる内在性の調節システムを持っているのです。解剖学の教科書がそれを置くように: "伝導系は、心筋線維を刺激して収縮させるように電気インパルスを生成および分配する特殊な筋肉組織で構成されています。"¹³ これらの筋線維は、神経系からではない電気インパルスを生成させるので確かに専門化されています。解剖学の教科書のどこにも、これらの心臓の筋肉繊維がどのようにして心臓を収縮させる電荷を生成するのかという問題を対処していないことは驚くべきことです。それは特殊化されて内在的なものと呼ばれていますが、それはどのようにそれを行い、そしてこのエネルギーはどこから来るのでしょうか？

ここで道が分けられます。聖書は私たちにこのエネルギーが神様から直接出るといいます。『われわれは神のうちに生き、』使徒行伝 17:28。しかし、サタンは私たちに私たちのうちに本来内在しているものであり、それは単に、私たち自身の所有であり私たちが所有する生物学的プロセスの一部一部に過ぎないと言います。『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。』創世記 3:4。これはこのような根本的な争点です。それは、どちらのどちらか他の一つです。この問題について中間路線を取っては『はい、神がすべてお作りになりましたが、それはまるで巻上げ式時計のようです。』と言う多くのクリスチャンがいます。彼はそれを開始し、実行させました。どういうわけかまるで神様がデュラセル・バッテリーを

¹³ Gerard Tortora and Nicholas Anagnostakos, *Principles of Anatomy and Physiology*, (Harper and Row Publishers, New York, 1984) p 463

製作して私たちの中に置いてくれたかのように。聖書は、この考えを教えません。私たちは、主の上でミリ秒ごとの一秒ごとの毎分ごとの 毎時ごとの日ごとが主に完全に依存しています。神様は私たちの心を鼓動させ続ける 電荷を積極的に、知って、愛情を込めて私たちに供給しておられます。この現実には人間として私たちを本当に不快な人間とし作ることのある何かがありますが、しかし 私たちはそれについては後述します。事実は今すぐこの問題を明確にさせる必要がありとのことです。私たちはどちらか、「われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。」を信じるか、または、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう」を信じます。中間地帯がありません。

これがわれわれ多くのためかもしれないことと同じくらい挑戦的のとし、私たちは人間の存在の物理的な部分のみを扱ってきました。私たちは今、精神的側面および霊的な側面を 考慮しなければなりません。次のテキストを考慮してください。

それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に 与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。(3) キリストのうちに、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

コロサイの信徒への手紙 - 2:2,3

主はモーセに言われた、(2) 「見よ、わたしはユダの部族に属するホルの子なるウリの子ベザレルを名ざして召

し、(3)これに神の霊を満たして、知恵と悟りと知識と
諸種の工作に長ぜしめ、(4)工夫を凝らして金、銀、青
銅の細工をさせ、(5)また宝石を切りはめ、木を彫刻す
るなど、諸種の工作をさせるであろう。 出エジプト記
- 31:1-5

聖書は御神をすべての知恵と知識の源として明らかにしています。
コロサイ人への手紙 2 節 2:3 は人間として私たちが、知恵と知識を
得ることができるという概念に挑戦します。すべての知恵とすべて
の知識は、御神の御子であるイエス・キリストを通じて御神から
もたらされます。この例は出エジプト記 3 1 節 1-5 に表示されて
います。ここで、 私たちは御神が人間に職人技の知恵と理解を
与えているのを見ることができます。私たちはしばしば非常に優れた
力量と才能を示す人々を「才能」と言うことがしばしばあるのは
興味深いことです。実に彼らは、御神が与えてくださった賜物で
す。

私たち自分自身をコンサートの真ただ中に移動させましょう。才
能あふれる若い女性がステージ上に印象的に置かれたグランドピア
ノ上で彼女の指を上下に走らせ観客を魅了させます。彼女はピアノ
を文字通り歌わせています- マスターの手のタッチで。彼女はそれ
からクライマックスへと向かっていき、終わりが来たことを感じさ
せます。私たちは彼女に続けてほしいですが、しかし歌が終わり、
群衆たちは熱情と強烈さを兼ね備えた高エレガンスさと優雅さに畏
敬の念を抱き拍手かっさいを送ります。その若い女性はお辞儀をし

て、称賛の香りを吸い込むと、ステージから歩いて去っていきました。

ちょっと少しバックしてみましようなぜならこの一般的なシナリオには興味深いものがあるからです。このような何かが起こるたびに観客は、（恵みあふるる神をたたえよ）歌をうたうか、または同様の性質のものに突入する必要があります。拍手は、技術と知恵と能力を与えてくださった御神に向けられなければなりません。ピアニストの心は神様から彼女に使用しなさいと与えられた贈り物に対して、愛と感謝の気持ちにあふれなければなりません、しかし、このようなことはめったにありません。もし私たちが本当にこのような行動をしたとしたら、私たちは成功によって意気揚々としないうし、または、失敗によって落胆したりすることは実行する能力は私たちから起源するものではないから、そしてそれが私たちから由来されていないのなら、私たちが成功した時に、自分の手柄にすることが出来ないし私たちが失敗した時に落胆したと感ずることもできません。

ここにデュラセルの木の呪いが横たわっています。広い空を飛ぶモーター付きパラグライダーの自由を想像してみてください。¹⁴私たちが成功するとき経験する自由感は、

¹⁴ Powered paragliding, also known as paramotoring or PPG, is a form of ultralight aviation where the pilot wears a motor on his back (a paramotor) which provides enough thrust to take off using a paraglider. It can be launched in still air, and on level ground, by the pilot alone – no assistance is required. Wikipedia. パワードパラグライダー(PPG)/ウィキペディア

その成功を遂げたと信じることは、地球の上空に数千フィートもの高さにのぼり、そこから素晴らしい見解を目の当たりにすることの興奮と比較されるということです。しかし、私たちが高くなりすぎると、酸素が不足して私たちが意識を失ったり、エンジンの故障によって私たちを地面に墜落させることもあるのです。私たちがその内にある力の嘘の中に登るほど、私たちが地球に衝突した時、より高い衝撃速度を持ちます。デュラセル木の呪いからは逃れることはできません。いったんあなたが一度その実を味わったら、登りたいという思いに抵抗できず、最終結果は避けられないのです。"うつ病が世界の障害の主な原因である"¹⁵ ことは偶然ではありません。

デュラセルの木の実、私たちに適していない高さに登りたいというこの欲望を生み出します。私たちが実を食べれば食べるほど、登りたいという欲望が大きいほど、墜落する確実性が高まります。あなたはすでに何ヒットを受け入れられていますか？あといくつあなたは取ることができますか？考える価値があります。

次の段階に移りましょう。私たちは身体的、精神的依存の含意を見てきましたが、霊的および道徳的依存はどうでしょうか？これは挑戦的な争点なので安全ベルトを締めてください。荒っぽい乗り物かもしれません。

¹⁵ http://www.who.int/mental_health/management/depression/en/

聖書は、『神は愛である』と私たちに伝えています。1ヨハネ4:8・これは、神が愛の源であると私たちに話します。それはまた、神を希望の神と言及しています。ローマ人15:13。この考えは、ガラテヤで大いに拡大されます：

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、(23) 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。ガラテヤ人への手紙-5:22,23

このテキストの含蓄は息をのむほど驚きです。ちょっと分析してみます。これらの属性はすべて、御神の御霊を持つことによってもたらされます。これは単に、神様の霊がなければ、愛、喜び、平和、忍耐、優しさ、そして他等々を持つことが出来ないことを意味します。ある日、湖のほとりの公園を歩いているときに、この聖書の真理について考えていました。落ち着いて平和でした。私は、ある母親が娘のブランコを押しているのに突然気が

つきました。彼女たちは二人とも笑っていて、明らかにお互いに一緒にいることを楽しんでいました。この母親が娘に対して経験していた愛は、御神に触発されました。娘に愛おしく親切で穏やかに接しなければならないという考えは母親の心から始まったのではなく御神の心から来ており、それを表現させることを選択したその母親に与えられ、それは母親の愛になったのです。このような意味で、それは実際に全く母親の愛ではなく、母親を通じて表現された御神の愛です。その愛は、彼女が御神の聖霊に应えて、それを表現したので母親の一部になりました。本当の意味では、子供に対する母親

の愛や旦那さんと妻の間の愛のようなものではありません。それは急進的に聞こえますか? うーん、これは聖書が教えることです。

私はセミナーで説教したり話したりするときにこの考えを何度も提示しましたが、聴衆がどのように反応するかを見るのは興味深いことです。ある一部の人々の顔はまるで私が人類の基盤を攻撃したかのように、見えます。これまでに歌われたきた何百万もの愛の歌のためにそして「私はあなたを愛し永遠にあなたを愛します」という結婚式の祭壇での何十億もの約束は、御神が私たちの受容的な魂に神様の愛を注ぐことなしには、それらの約束の一つも守られることはできません。愛という属性をパラグライダーに置き換えてみましょう。なぜ、それほど多くの人が愛から"脱落"して地面に墜落するのでしょうか? 愛というのは自分自身の魂から由来すると信じている人は、しばしば朝、目覚めることができ、パートナーとの愛を「感じる」ことはできない。彼らは、この関係がもはや彼らにとって正しいかどうかについて疑い始め、しばしばその感情を取り戻すために、他の誰かを探し始めるのです。デュラセルのクレジットカードは限度額に達したことで、さあ今は支払いの時間です。

妻を永遠に愛するという誓約にたいして、本当に意味していたあの誠実な男性はどうであって、それから突然、彼は別の女性に惹かれていることに気がつきます。彼はこういうふうを感じたくないかもしれないかもしれませんが、彼は"それを助けることはできません"。愛は情欲と混同されており、またそこには彼の誠実さに対して疑いが生じます。彼はその後、このように行動することからの罪悪の感覚が、彼

はまだ愛らしいかも知れないと信じることを妨げるので、彼はパートナーから手を引き始めます。彼は心の中でその愛の流れを維持できることと信じていましたが、彼のパラグライダーは失速して彼が打ち上げた場所から地面へと衝突してきて、そして彼の結婚生活は終わりました。

結婚で喜びを見つけることがほとんどの人にとってそんなにとらえどころがないことは 不思議ではありませんか？

結婚生活を送っていてもうこれ以上それだけの価値がないと感じている人々のために、愛は神様の心からのみ起源したことであり、それを神様に求める人々には自由に利用することが可能だということを覚えておいてください。もしあなたがパートナーに対する愛を失ったと感じるならば、神様にあなたにそれを返してもらうように頼んでください。その方は約束通りに、そうするでしょう。

わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

(14) 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。 ヨハネによる福音書-14:13-

14

第3章. 神様の心にすぐ近く

私たちは、猛スピードで高速道路を走っていました。ローレルの収縮は持続的なパターンへと発展しました。私たちは捕まえられることが嫌だったので、急ぎで病院へと駆け出しました。それはすべてが非常に新しくて刺激的でした;まもなく私たちは初子を授けられることになるでしょう。私たちは労働病棟まで滑走し、看護師は私たちを一見し、言いました。"あなたは幸せすぎます、散歩に行く必要があります。" まあ、それは私たちの熱意を弱めました。45分後、私たちは戻って来て、ローレルはもう笑っていませんでした。さらに30分、私たちはちょうど陣痛の真ただ中に着陸しました。そう、それを描写する単語はありません。労働、重労働。私たちは出生前のクラスからすべてのテクニックを覚えているようにしようとしたが、しかし、集中してとどまることは難しかったです。それらの収縮は、正面から来ている貨物列車のように打ちました。あなた

が一つ対処したとたん、次のものはまっすぐにあなたの上の方にいました。ついに 11 時間後に、私たちは初生まれた息子、マイケルを受け取りました。

彼女が出産した直後のロレルと私の本当に面白い写真があります。とても全く凄いことです。彼女はそれがまるで一日の日課のように、彼女はただそこに光り輝きながら座っていて、私は今にも倒れそうに見えるそよ風に揺れています。私はその日、女性らしさに対して奥深い新しい尊敬の念を抱くようになりました。私はあなたの家内が出産するのを見ていることは本当に激務であることだとあなた方、女性の方に言わなければなりません。

あなたが笑い終わるとき、私の要点を終えます😊。あなたがそれほど愛する人を苦痛の中で見守るという感情的ストレスは信じられないほど凄いです。われわれ男性にとって、私たちは通常問題に対する解決策を持っていますが、私は今回は何の答えが出ず、痛かったです。私はただ「神様、この全ての苦しみには理由があるということを知っていますが、しかし今まさに私はそれを見ることができません。」と祈りました。それが終わった時、私は確かに嬉しかったです。

私が初めて息子を抱いたとき、それは永遠の瞬間でした。私は彼の目を見下ろし、彼は私をまっすぐに見返していて、それはすばらしいものでした。畏敬の念と不思議に見下ろし続けると、私はこの深い恐怖感に握られました。私の息子には、私のものと同一の本性が刻印されていて、権威に挑戦する性質、服従よりも反乱に自然に引

き寄せられる性質を持っていることを私は知っていました。私には、その意志を導き、真の愛、優しさ、無私無欲、従順のしつけの分野で彼を訓練する責任があることを知っていました。このすべてのことがあった後、彼は私の友達になるのだろうかと思いました。何かが私たちの間に来て、私たちを引き離すことができるのでしょうか？私はちょうどそこで 祈りました。 "天にいらっしゃる親愛なるお父よ、私の息子と私の間に何ものも入り込ませないでください。" 私たちがいつも近くにいてもらって、彼が私が誰であるかを知って私の友達になれますように祈ります。その祈りの激しさは私に残っています。私はそれをしばしば感じて、神様がそれを現実にしてくださると信じながら今も祈っています。

4年後、私は静かな安息日を、主とともに歩き、話を交わしながら、人生の騒がしさから遠く離れたところで過ごさせていました。私の天の御父とその方からの私への愛、そしてそれがいかに貴重で有るかを考えていました。不意に、私の心は私の息子の誕生のときに引き返し、私は彼と決して離ればなれになれないという、強烈な願望によって、その方は本当に私を知っている事に気が付きました。場面が過ぎ去り、そして静けさの中で、私はまだ小さな声が私の心の奥深くに聞こえ、それは言った、"それが私のあなたに対する気持ちです"と。笑うべきか泣くべきかがわからなかったので、受け入れることが信じられないほど大変でした。"でも主よ"私は言いました、"あなたは私がどんな人か知っていますし、あなたは、私がやった事と、多くの間違った言い方をしたのを知っています。"と、それで私は戦い続けました。私は自分自身に本当に驚きまし

た。私はキリストを救い主として受け入れ、自分の罪が赦されていると信じている人なのですが、神様が私にあんなに近くに来て、その方が私について感じていることをおしえてもらったとき、私はそれを 受け入れるのが困難でありました。最終的に私はただ叫びました。"ああ、ありがとうございます。私を愛してくれてありがとうございます。私のためにしてくれたすべてに感謝します。私はあなたをととても愛しています。"とてもリアルな感じで、私は主の腕に抱かれつつあるように感じました。私はこれ以上幸せではなかったのです。天の御父はわたしをととても愛しておいて、私たちの間に何かが入ってくることを望んでいないのだと気付きました。私たちが分離されると考えることに、主は傷つきますし、主はそれが決して起こらないようにその方が出来る全ての事をしています。

この経験の中で、神様の王国の一部になれるという素晴らしい特権が、私の心のレベルで私に明らかにされました。この出来事の後すぐに、私は聖書のあるいくつかの節の通路に導かれ、本当に私の目が開いて、より一層、神様を賛美するようになりました。私は、このテキストの重要性があなたの心に燃えて、あなたのもとを決して去らないように祈ります。ここに神様の王国に入るための非常に鮮明な窓があります：

五羽のすずめは二アサリオンで売られているではないか。しかも、その一羽も神のみまえで忘れられてはいない。(7) その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数え

られている。恐れることはない。あなたがたは多くの
すめよりも、まさった者である。ルカの福音書-12:6,7

イエス様は、彼の王国の原則を説明しています。これらの聖句には、その王国の中で何が人々を重要な存在にする公式を持っています。何が彼らを数えているのはか、何が彼らを価値のあるものにするのか、それらを貴重にしているのは何ですか？これらの問題があるあなたにとって重要でないならば、このテキストは大きな意味はありませんでしょう。しかし、自己価値の問題と格闘していない人を私はまだ見つけていません。イエス様はすずめ2匹の価値を人間の用語でおっしゃいました。この地上での意味では、これらのスズメはほとんど価値を持っていません。それからイエス様は対照を作って、言います。"その一羽も神によって忘れられてはいない。"ここでの対照は、神様がスズメを覚えているので、神の王国においてはスズメは大いに価値があるということです。イエス様は、すずめと比較して神様が私たちについてどれだけ考えていらっしゃるのかを比較することによって、この原理を拡張していきます。"あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。"もし、これが「率直で、近くて、そして個人的な」ことでなければ、それではそれは何でしょうか？あなたは、あなたについてそんなに知りたがっていて、それらはあなたの頭の毛の数さえもモニタリングしている人を知っていますか？その後、核心的な内容が出てきます："恐れるな。あなたは、多くのスズメより以上の価値がある" あなたはどのようにして価値や意義を神の王国で得られるのか、確かめることができますか？それは、神様が私たちに対して愛情を注いで絶えず考え

るということを単に、悟ることから来るのです。私たちは確かに主の心に接しています。私たちが人生を楽しむ事が出来るように、その方は私たちに命を与えていて、私たちの心を鼓動させていて、そして活発に主の愛を私たちの命へと注いでいます；そして、主は私たちに豊富な贈り物を、私たちの満足のための才能と能力、他の人のための愉快さとサービスを与えてくれます。ここに、神様の王国の秘密、意義の秘密があります。それは無価値とうつ病の奴隷にする王国の錠をあける鍵なのです。それを信じる勇氣はありますか？

私たちがこのポイントに止まっている間、神様があなたについてどれほど考えているか知っていますか？これを聞いてください…

わが神、主よ、あなたのくすしきみわざと、われらを思
うみおもいとは多くて、くらべうるものはない。わた
しはこれを語り述べようとしても多くて数えることはで
きない。詩篇-40:5

もし、私たちの価値が、神様が私たちへ向かって持っている愛情のある考えによって決まるのであれば、そしたら、このテキストは、私たちがきわめて貴重であることを私たちに伝えています。なぜなら、それが言うには、神様の私たちに対する計画と思いは、宣言することも数えることも出来ないほど大きいからです。きわめて貴重であることはどう感じますか？しかし、私たちがどれほど良いか悪いかにかかわらず、神様が私たちを尺度を超えて愛しておられるということは、真理に対する私たちの信念と同じくらい良いことだと

いう事なのです。これはすてきなニュースであり、私はそれに対して非常に感謝しています。ですから、自分の価値を疑う誘惑に駆られたときはいつでも、ただ、スズメを見て信じてください！

第4章. ファミリー王国

暖かくてしめっぽい日です。お祭り騒ぎのような雰囲気が部屋に充満しています。おいしい香りがキッチンから漂ってきて、味らいに真のおもてなしをお約束します。過去のお話を物語として語りながら笑い声が鳴り出します。贈り物はは、愛と混ざり合った興奮した驚きの雰囲気の中で交換されています。子供たちはおばあちゃんが待遇するおやつをむさぼる間、おじいちゃんが私たちの伸びった身長を教えてください。これは、しばしば、私たちが祖父母を訪問しに行った時の私たちの経験でした。それは家族のための時間であり、あなたがどこに属しているかを再確認する時間であり、愛するそれらの人たちと再接続することと贈り物を共有する時間であり; 一緒にいる貴重で重要な時間でした。

そこに、ますます驚くほど拡大していくうつ病と無価値さから私たちを守ってくれる、親密な家族の感覚ほど重要なものではありません。家

族とは、あなたが誰であるかに関わらずあなたを受け入れられ、ありのままの自分でいられる場所であり、間違いを許してくれる場所であり、単に人生と一緒に楽しんで共有することができる場所になることができます。

イエス様は、私たちに祈り方を教えてくださったとき、神の王国にきわめて重大な絵を私たちに開いてくださいました。イエスは言った。"これは、あなたが祈るべき方法です!" 天国の私たちの父…" "イエス様は、私たちが最初に参照する基準点として、"親愛なる神様"あるいは"あなたの神聖な陛下"、あるいは"親愛なる王様"とお祈りするのではなく、『私たちのお父』だとおっしゃいました。

神様王国は家族です。

このことは、ある人たちにとってはとても明白に見えますが、ファミリーキングダムが持つ含蓄の意味は非常に広範囲にわたっています。私たちは次の章でこれらの意味合いについて、見ていくことにしましょう。

父なる神様が人類に初めて語りかけたのは、マタイ 3 章 17 節であります。黎明期からイエスのバプテスマまで、御神はその方御子を通して私たちとコミュニケーションをとられました。継承された神性の完全な満ちたすべてにおいて、イエス様は紅海を開いたエホバであり、その方はシナイ山から雷鳴を鳴らしたエホバで、その方はヨシュアを約束の地に導いたエホバでした。1 コリント人 10:1-4. キリストのバプテスマの時に、御神の一御子はわれわれの一人として -"神はわれらとともに"-エマヌエルとなりました。だから今、

御父の神様は初めて話します。その方のお言葉は（いつもそうであるように）非常に重要な意味があります。ちょうど、ここに神様はその方の王国の核心本性を提示して現わしています。"これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。" 神様がその方の御子を紹介することができた方法はいろいろあります。"これは天と地の創造主です、これに聞き従い"または"これはあなたの王です。彼に従い"しかし、神様は王または統治者の条件ではなく、むしろ家族の観点からその方の御子のアイデンティティを宣言しています。もし、私たちがこの陳述を分析する場合には、次の点に注目してください。

1. これはわたしの子

= アイデンティティ

2. 私の愛する者;わたしの心にかなう者である

= 価値

神様の王国では、意義と価値は私たちと神様との関係によって決定されます。これは、自分自身や周りの他の人々によって判断される私たちの成功的パフォーマンスや成果により、意義と価値が決定されるサタン王国とは全く対照的です。御神の王国では、神様は私たちの父であり、私たちはその方の子供なのです。それが私たちのアイデンティティです。私たちは何をするよりも、誰に属しているのかで知られています。神様が、その方の子供として私たちを愛し、私たちにその方の祝福を絶えず注ぎ出して、私たちのことを絶えず

考え、私たちの近くにいたいと思ってくださっているという事実は、私たちに信じられない価値観の感覚を提供してくれます。" 恐れるな。あなたは、多くのスズメより以上の価値がある。"

神様の王国においては、私たちのアイデンティティと価値は、御神ご自身と同じくらい-エバーラスティングそして決して-変わることはありません。成功か失敗かにかかわらず、私たちの関係は不変であり、私たちの価値は安全です。サタンの王国では、私たちの価値は2001年9月11日以降の株式市場とほぼ同じくらい確実で、非常に揮発性で、完全に不安定で必ず必ず暴落するものなのです。私たちが常に成功することを保証できますか？ 私たちが励ましやサポートを求めている周囲の人々が、常に私たちの努力にいつも拍手を送ることができるかと確信できますか？ ほとんど！ 聞く耳を持った人々のために、賢者は砂を移すことよりもむしろ岩の上に彼の家を築き上げました。

私たちの個人的アイデンティティを保護し、絶望と落胆、無価値さと死の生活に入ることを防ぐため、神様は関係を守るための法律をその方の王国の心臓部に祀られているのです。それは2つのタイプの関係を扱っています。:私たちと私たちの天の御父との間の関係、そして御神の王国での兄弟姉妹としての私たち一人一人の間に結ばれた関係です。これがイエス様が言った理由です:

イエスは言われた、『"心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。" (38) これ

がいちばん大切な、第一のいましめである。(39) 第二もこれと同様である、"自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ"(40) これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』マタイによる福音書 22:37-40

これらの二つの偉大な戒めは、神様の子供としての私たちのアイデンティティと価値を保護するために考案されました。もちろん、この二つの偉大な戒めは十戒を要約したものです。あなたは十戒が、あなたが自己-価値を失わないように予防するのにきわめて不可欠であることを考えたことがありますか？御神の王国内部で十戒は関係の文脈から理解されています。もしあなたがそれらの関係を絶つとしたら、あなたは自分のアイデンティティを破壊していることになり、あなたがアイデンティティを破壊する時、死はあなたを抱きしめることをあこがれます。罪の報いは死であるという、神様の声明書には恣意的なものは何もありません。罪（聖書はヨハネの手紙第一 3:4 で律法を破ると定義しています）は私たちのアイデンティティと価値を破壊します。アイデンティティと価値が消え去ったとき、魂は死を渴望します。まさにそのとおり、うつ病と自殺が今日の社会における最大の問題となっている理由なのです。その答えは簡単です- 罪。御神がなぜそんなに罪を憎まれているのか見られますか？罪は神様の子供としての私たちのアイデンティティと価値の強盗であり、御神はそれを破壊することを決意しています。

私たちが取り上げたものを簡単にまとめるためだけに:

1. 神様の王国は家族です。
2. 神様は私たちのお父であり、私たちはその方の子供です。
3. 個人としての私たちのアイデンティティと価値は、神様との関係に基づいています。
4. 神様の王国は、私たちと神様と間の関係、そして神様とお互いの間の関係に基づく関係的王国です。
5. これらの関係は、十戒によって守られています。
6. 戒めを破ることは、私たちのアイデンティティと価値が破壊されます。

第 5 章. 家族の危機

私は、彼がある種の精神的外傷に苦しんでいると彼の顔の表情によって、言うことが できました。彼の目の下のたるみは正常に見えるようにする彼の勇敢な試みを裏切りました。私は彼に尋ねました。"全てが大丈夫ですか?"

"妻と私は別居しています"と彼は痛々しいほど言いました。"私はただそれが来るのを見てなかったです"と彼は後悔に没頭して言った。私たちは彼が直面している課題について話し、それから彼は"子供たちに会わないことが手に負えません。それは私を殺すだけです"とぼんやりしました。私は彼が自分をまとめるのに苦労しているのを見ることができ、そして私は本当に彼の痛みを感じました。私は彼を助けることができたならとまじめに思いました。彼の最終的なコメントはこのようなものでした。"私はただどちらに向かっているのか、どこへと向かっているのわからない。"

別居や離婚という紆余曲折の地に行ってきた人々だけが、その言葉の背後に隠された感情を理解することでしょう。気の進まない当事者が感じる衝撃、怒り、悲痛は、しばしばパートナーの死を経験することと比較されてきました。¹⁶ 離婚の壊滅的な現実には、単に資産の分配ではないそれ以上の意味を持ち、これはあなたのアイデンティティ全体を再定義することを意味します。¹⁷

最大の被害者は、もちろん子供たちです。単に事件の時ばかりではなく、彼らの残りの生涯において、子供の心を通り抜ける破壊的な感情の範囲は、彼らの残りの生涯において、単に事件の時ばかりではなく、彼らの残りの生涯において、子供の心を通り抜ける破壊的な感情の範囲は、彼らの残りの生涯において、それは決して完全に計算されることが出来ません。

ジム・コンウェイ(Jim Conway)氏は 離婚の子供たちであった何百人もの大人を調査し、そして、彼らを感じた感情の幅を、以下の通りに並べて記述されました：

幸せではない	72%
無力さを感じた	65%
さびしさを感じた	61%
恐れていた	52%

¹⁶ ネリー・ゾラ&レナータ・シンガー/離婚の地からの実話 (Nelly Zola and Renata Singer, True Stories from the Land of Divorce, (Pan Macmillian, Sydney, 1995) p 2

¹⁷ 同書 Ibid

怒っていた	50%
見捨てられたと感じた	48%
個人的に拒否されたと感じた	40%
無価値たと感じた	30%

子どもの頃に離婚の対象であったことで、それらの大人たちは次のような問題を残していました。

絶えず承認を求める	58%
彼らの過去の一部をブロックする	54%
彼ら自身を厳しく判断しすぎる	53%
彼ら自身を深刻にとらえすぎる	47%
統制出来ない状況に過剰に反応する	42%
依然として人間関係に問題がある	40% ¹⁸

御神が「わたしは離縁する者を憎み！」"と言っているのは不思議ではないです。マラキ書 2:16. それがどのように生じ、または誰が誰から立ち去るかに関わらず、家族関係の喪失は全ての当事者にとって破壊的なものです。家族の関係が壊れたとき、勝者はいません。しかし、これがまさに天国で起きた出来事です。御神の家族は、愛する最初の創造された子が

御神に背を向けたときの危機によって引き裂かれました。

¹⁸ コンウェイ (Conway, p 31)

聖書は ヨハネの黙示録 12:7 で、"天では戦いが起った"と述べています。この一節を読む時、私たちはこれが二人の王とその王国の間の戦争だと思いたくなる誘惑を受けることができますが、しかしこの戦争は御神の家族を引き裂くものでした。あなたは御神が最初にルシファーを作ってから、その方の新しい息子をそっと持っていた時のことを想像できますか？神様はその方の心そのものと魂をこの天使と分かち合っていました。その方は彼に愛以外には何も見せず、彼に家族政府の最高水準で奉仕できる特権を与えました。しかし今は、その方のこの子は怒りと反乱の言葉を吹き出していました。彼はごまかしとうその影で動きながら、御神の他の多くの子供の心を毒殺しました。その悲しみが想像できますか？完璧に創造されたルシファーは、今や憎しみと殺人に満ちていました。イエス様はヨハネによる福音書 8:44 で初めからサタンが人殺しであることを、明らかにしていますので、彼は神様の永遠の御子を滅ぼそうと血眼になっていました。この感情の実態はサタンがイエス様を排除することを望んでいたカルバリの十字架の上に示されました。

御神がその方の息子ルシファーのために感じた喪失感を誰が理解することができるでしょうか。私たちは、ダビデとアブサロムの話から、御神の心からのこだまがあることを悟ります。

王はひじょうに悲しみ、門の上のへやに上って泣いた。彼は行きながら このように言った「わが子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが

代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ」。サムエル記下 -18:33

アブサロム、ダビデの美しくてハンサムな息子は、彼の父親を殺して、彼の王国を奪うことを望んでいたが、しかし、ダビデの軍隊は彼の息子の軍隊を打ち負かし、アブサロムは戦闘で殺されました。勝利の喜びの代わりに、ダビデは彼の反逆した息子を失ったことで泣きました。家族がバラバラと引き裂かれたときは勝者はいません。

御神の王国では、人のアイデンティティと価値は、私たちの天の御父である創造主神との関係に、結びついていることを覚えておくことが決定的なのです。ルシファーがその関係から抜け出したとき、彼は精神的および感情的に自殺し、予期せぬ暗い感情の洪水の水門を開いてしまったのです。ルシファーが反乱を起こす前に、あなたが彼に「あなたは、誰ですか？」と尋ねたとしたら、彼は落ち着いた確信と自信を持ってと言えたでしょう。"私は神様の息子で、その方は私を愛しています。" 一度ルシファーが彼の御父を拒絶した後、もしあなたが彼に同じ質問をしたとしたら、"ルシファーあなたは誰ですか？" 彼は何と言えたでしょうか？ もはや彼にはアイデンティティがなく、彼はそれを破壊してしまったのです。彼がその時点から、自分のために創造しようとしていたアイデンティティが何であれ、彼の天の御父との緊密な関係を断ち切ったことから生じた彼の経験したその虚しさと喪失感を決して埋めさせることはできません。

何度も彼は失ったものを再び戻せることを願望しましたが、彼のプライドは決して彼を許しませんでした。それに加えて、彼の内側の深いところでは、彼の厚かましい恩知らずの公然とした反乱以降に、自分が許されるとは決して信じないからです。今は、"対抗者" という意味をもつサタンは孤絶に一人で立っています。彼を抱きしめる人もなく、頼れる親の姿もなく、ホームと呼べるような場所ありません。今や、サタンは無価値のすべての感情によって活気づけられています：不安定、恐怖、虚しさ、嫉妬、プライド、自己正当化、ごうまん、激怒、怒りとそして支配精神などによって。

サタンは、これ以上どんなことが起こっているのかも知りませんでした。彼は自分が誰であるかを再定義し、何とかしてその虚しさ、無価値さ、彼の内面から感じたその無意味さをなんとかをなだめなければなりませんでした。何の価値もないと感じているほかの子供と同じように、サタンは不安定、恐怖、狂気、そして、彼はそれを得る事ができる人々からの承認を切実に必要とする、すべての標識を彼は持っているのです。彼は注意を渴望し、その空虚さを満足させるために、彼の倒錯した本性は、崇拜され、慕われ、愛されることを切望していて、そして－何でも、苦痛、孤独感、無価値を取り除くのであれば－何でもいいのです。この悲しい状態は、なんとシティ・オブ・エンジェルと呼ばれる映画の歌にも驚くほど反映されています。

1 節

全ての時間を待ち続けている二度目のチャンスがやってくるのを
状況が良くなるきっかけを

いつだって何かしらあるの 心が満たされない理由が
そして一日の終りには それがつらくなる
何らかの気晴らしか 美しい解放が欲しくなる
私の血管から記憶がしみ出してきて
私を空っぽにしてくれるおお、そして無重力の状態になってそしてた
ぶん、
私は今夜は安らぎを見いだすでしょう

2 節

真っすぐな道を歩くのにすっかり疲れてそしてあなたが振り返る
ところその背後にはどこもハゲタカや泥棒ばかり
嵐はうねり続けあなたは うそにうそを積み重ねていく
あなたに欠けている 全てのことを補うために
それは何の変わりもないこと この前にあなたが逃げ出した時と
信じるのは たやすいこと この甘い狂気を
おお、この輝かしい悲しみが私の膝を折り屈服させる

サタンは人間関係を価値の根拠として拒絶していた時から、彼は関係に基づく王国を決して設立はできません。そこには、彼に残された一つのオプションだけがありました。あなたが自身が誰に属しているかではなく、あなたの行動によってよって知られるようにしてください。すべての生命、知恵、愛が神様から来ることを誰もが認められなければ、決してこの王国は機能させることは出来ないのです。あなたがそれを勝手に使って悪用できる力。サタンの王国は、

権力とパフォーマンスと快楽を捜し求める王国です。その中心となるテーマは、誰に対する責任を持たず、あなたに役に立つような人々たちだけを気にかけることです。

この王国は運命的であります、もちろんです、なぜなら、それを持続する生命力は生き物に属して、いつの日かその方を拒絶した罪悪感、神様の子供としてのアイデンティティを頑固に認めることを拒否する人々の人生を押しつぶすからです。そのアイデンティティを拒否することから来る苦痛や喪失感を奪いとるものは何もないので、それは運命的です。ここで、"悪人どもには平安がなし"ということわざの真実を私たちは学びます。

私たちがこの前後関係の範囲内でエデンの園に戻るとしたら、サタンは天国からの排除を妨害しているときの彼は外面では、狡猾で賢いように見えることがわかります。しかし、その内側には孤軍奮闘する空虚と不安でいっぱいのあるゆえ、新しいアイデンティティを形成し、ますます広がり続ける絶望の淵から逃れようともがき続ける心があります。

第 6 章. この世の地獄

それは人生で最も悲痛な経験の一つでなければなりません。何年もかかったかもしれませんが、時間がたつにつれ、あなたは誰かと本当に確固たる友情を築いて来ました。あなたが一緒に時間を過ごしていて本当に楽しいと思えるようになった人。突然、あなたはあなたの友人が少し奇妙な行動をしていることに気づきます。あなたはそれをそのまま乗り越えようとして、あなたが物事を想像しているだけであり、それは本当の争点ではないと自分に言い聞かせます。しかし、時がたつにつれて証拠はどんどん増え続け、ついにはあなたは友人に何が起きているのか尋ねざるを得なくなったと感じます。明白な答えを導き出すために多くの時間を費やした後、あなたは他の誰かがあなたに反してあなたの友人に影響を与えていることを見つけ、それは彼らにあなたを驚かせるような方法であなたの行動を解釈するように導きました。

確かに理由が優勢となり、あなたはこの誤解をすばやく解決できますが、そうではありません! あなたが合理的な説明をしようとする

ので、あなたは恥ずかしげもなく隠ぺいをでっち上げようとしていると非難されます。この時点で、いくつかの感情のうちのいずれかあなたを追い抜くかもしれません： 傷つき、痛み、怒りあるいは荒廃さえも、あなたの友人は、あなたに一言も言わずに、他の誰かを簡単に信じてしまいました、あなたを守るところか！あなたの怒りの爆発または沈黙（どちらか該当するか）は、あなたの「友人」に、彼らが正しく、あなたについて言われたことがすべて、真実であったというシグナルを送ることになります。侮辱に侮辱を重ねることになります。傷害に侮辱感を加えることについて話してください！

おそらく、皆さんがこの最後の二つの段落を読んでいるうちに、つらい記憶が浮かび上がってきて、この地球上のほぼ時間の夜明け以来から何度も何度も繰り返されてきたこのシナリオの現実を確認したかもしれません。

としても、そんな事件的な文章を自分自身で直接書いて思い起こすときも、私は立ち止まって、もう一度 "なぜ?" と尋ねます。

私は私たちの大部分が、似たような形の拒否による、傷痕を持っていると確信しており、私はそれらはアダムとエバが知識の樹の実を食べた直後に、神様がどのように感じられたのか理解するのに私たちには小さな方法で役に立つことができると推測します。見知らぬ人の言葉が最高の友人を切り離すことが出来るということは、人生の最大の謎の一つです。

私はしばしば、神様の娘エバが庭の真ん中にいる自分自身を見つけ、突然‘見知らぬ人’に引かれて話し合っているのを神様が注意深く見守っている姿を想像していました。神様がエバに投資していたそのすべての時間の後、数え切れないほどの神様の愛の証を彼女にみせたあとにも、彼女は天の父の保安と愛にしがみつくな、それとも蛇を経由したサタンの言葉を受け入れるのでしょうか？なぜ神さまが介入して天使を送り、彼らの関係を断絶させなかったのでしょうか？この時点で答えなければならない"なぜ"との質問が数多いと推測します。私たちはそれらすべてを取り扱う時間やスペースがなく、そして、実際にそれらのいくつかは、私たちがその方を対面して見るまで完全に対処はできません、中心的な答えは愛です。

愛は、選択が選択の贈り主をひどく傷つける場合でも、選択する特権を与えます。もし神様がその方の子供たちが間違った方向に向かうとするたびに介入する習慣を持っていたとしたら、そうになると実際には彼らには選択の余地がまったくありません。指示と訂正のための時間がありますが、選択を与える側の沈黙が、彼が発した"愛してる"という全ての表現を検証する時が来ます。なぜなら、選択肢のない愛はまったくの愛ではないからです。これは、すべての親が彼らの子供たちを扱いながら取り組む現実です。私たちの全ての指示と方向提示の後、私たちの子供たちがまだ私たちに対して不利な選択をした場合に、私たち自身は子供たちを拒絶の痛みから救うことを禁じますか？それとも、私たちは沈黙を保ち嘆き悲しん

で、彼らが私たちを拒絶する選択を許しますか？ それはどんな親にとっても厳しい選択です。

愛という力を身にまとった神様は、大切な娘エバが、神様の最愛の息子であるアダムを滅ぼす器具になるのを黙って見守っています。今頃は、もう、御神の心の痛みのレベルは計り知れないものになっているはずです。御神は娘を失って御神の心に痛みが生じたら、御神はアダムを救うために介入するのでしょうか？ いいえ。神性な愛は深く嘆き、沈黙の中で待ち続け、その方が真に自由と自由な選択の神様であることを疑いの余地もなく証明します。その方はアダム自分で選ぶこと許可するでしょう。私たちがテストについて話すときは、アダムとエバが天国クラブの一員になるのに必要なものを備えているのかどうかを確認するために、神さまが天国の安全からテストの進行を不注意に見ているという不条理な考えを楽しまないでください。御神はアダムとエバと同じ位に試されていました。御神はアダムとエバが陥落すれば、神さまは御神の御子であるイエスキリストの命を与えるために、世の創造の¹⁹ 前に決定されていた誓約を発動しなければならないことを知っているからです。キリストは、彼らにその方の御父が本当にどのような方なのかを示してくれるでしょう；御子は彼らの罪を自ら引き受け、彼らの命よりもむしろキリスト自身の生命を押しつぶしてしまいました。この全てのことを御神は黙ってエバを見守っていて、それからアダムが御神に逆らう選択をすることを十分に自覚しておられました。その沈黙の中

¹⁹ ペトロの手紙第 1-1:20；ヨハネの黙示録 13:8

にどんな愛があったのでしょうか？この愛のデモンストレーションは、御神が私たちの原初の親に対処する際に、私利私欲のために動かされたという誤った考えを永遠に取り除きます。

私たちは第1章では、アダムとエバがその木から実を食べた時に、抱いていた哲学について議論しました。前の章では、サタンは、私たちが神さま無で生きることができ、私たちが達成することによって、自分自身のアイデンティティを形成するという、概念を組み合わせるように導く悲劇的な感情の混合について私たちは議論しました。アダムとエバの胃液のジュースが実を消化している間でさえ、無価値と罪悪感の吐き気を催す雲が徐々に彼らの心を包み込みながら、神様と人の間の愛らしくそのすてきで幸せで喜びに満ちた関係を閉じてしまいました。デュラセルの木の呪いは、その狡猾な作業を始め、短期間の以内にアダムとエバは罪悪感と恐怖に包まれました。彼らは、サタンと彼の天使たちとともに精神的にも感情的にも自殺してしまいました。彼らは自分のアイデンティティと価値を失い、彼らができることは何もそれを取り戻すことができませんでした。彼らは神様に好意を示すために、自分自身を回復できませんでした。彼らは関係を断ち切り、御神のみがそれを回復できました。この事実は、私たち自身の経験を反映しているときでさえ自明なのです。もし誰かが私たちとの関係を違反した場合、その関係を回復できる力は非違反者の当事者にあります；違反の当事者はこの関係においていかなる権限も降伏したものです。

この時点で、第2章で見つめたことを覚えておくことが重要であります。御神は生命と 知恵と喜びの源です。アダムとエバは今や、彼らが自分自身でこのすべてを所有しているという嘘を信じることによって、その源から彼ら自身をその源から彼ら自身を切り離してしまったのです。彼らの推論力はもはや利他的にまたは客観的に使用できません。彼らの心は完全にサタンと調和を成しています。彼らにはサタンが彼らに告げるうそを明らかにする能力がありません。サタンは、神さまの品性に関する虚偽の理論で彼らを満たし始めます。同時にサタンはアダムとエバに彼らが悪いと言います。彼は、彼らにとって彼らは死ぬ資格があり、そして彼らは無価値な個人であると伝えます。サタンはまだ-私たちの アイデンティティーの感覚を破壊することに傾倒しており、彼は私たちに神さまについて嘘をつき、私たち自分自身についてのうそを付くことによってこれを行います。私たちが神さまと私たち自身についてのうそを信じている限り、決して私たちは神さまと和解はできません。神さまとの関係を回復させる唯一の方法は、御神のみ子に明らかにされたように、その方の品性を本当に知ることです。

その見知らぬ人が最良の友達らを引き離してしまったのです。御神は訪れ、アダムとエバを呼びますが、彼らがかつて宇宙で最も甘いと考えた声は、もう、今では彼らを恐れと絶望の中へと隠れるように送り出します。サタンのプログラミングがその仕事をしました！

ある日、仕事から帰ってきて、子供と一緒に育てた幸せな儀式を喜んで期待していること想像してみてください。めいめいの午後、あなたの子供は"パパ、パパ"を呼び歌いながら、玄関の外に走り出て、優しい抱擁であなたの腕の中に身を投げます。家に接近するにつれて、あなたは最愛の子供があなたに挨拶するために来ていないことに気がづきます。当惑し、あなたは家の玄関に入ると、隠れるために庭の中へと素早く駆けつける小さな足音を伴った恐怖の悲鳴が聞きます。何かが関係を壊してしまったのです。愛があったところには今は恐れがあります。本当の父親は、彼の声の手招き音で子供たちが逃げられることを楽しんでいません。それは痛みです。罪が、宇宙で最も愛情深く、寛大で、忍耐強く、自由を愛する人を恐れさせることができるのは悲劇です。

御神は非常に深刻なジレンマに直面しています。アダムとエバがほかの声に耳を傾けている今、神さまはどのように彼らに接近するのでしょうか？ 御神が発する全てのお言葉は今や邪悪な光の中で解釈されています。彼らは自分たちに 罪があることを知っていますが、誰が生命と知恵の源であるのか、彼らは今、御神についての誤った考えを受け入れたために、自分たちが間違っていることを受け入れる安心感や価値はありません。罪悪感と不安の精神に統制されて、彼らは挑戦的になりました。彼らは正直に推論する力を失っています。

私は、その方の忍耐の中に示されている御神の愛に驚嘆します。御神はアダムに 「"あなたはどこにいるのか"」 と呼びかけます。

その方は知らなかったのではなく、アダムが争点に直面することを許すからです。あなたの心はどこにあるのですか アダム？あなたのアイデンティティはどうどうになりましたか？肉体的なことは常に精神的なことを表しており、アダムとエバの肉体的な隠れのことは、彼らの心の中で起こっている隠れをはっきりと明らかにしています。彼らはとても恐ろしいと思われる真実に直面することを避けるために彼ら自身は、ごまかしと偽りに身を包みました。御神は彼らが問題を診断できるように助けようと努力していて、それでその方は彼らに祝福された解決策をもたらすことができます。

アダムは御神に、自分が裸だったので恐れていたということで、御神の質問に応答します。この告白は創世記 2:25 に照らすと興味深いものです。"人とその妻とは、ふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。"アダムは実を食べる前は裸でしたが、恥ずかしいことはありませんでした。ここでの推論はアダムが今、恥じているということです。ヘブライ語の単語 (buwsh) も混乱し、困惑させる、失望させたを意味します。アダムは混乱、罪悪感と失望に満ちていました。彼は自分が誰であるかについて混乱し、彼自分がしたことに罪悪感を感じました。神さまは今、アダムの痛みの強さに指を置き指摘しようとしています。"あなたが裸であるのを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか？"神はアダムに尋ねません。"あなたが裸であるのを、だれが知らせたのか？"神はアダムに "誰があなたが裸だと言ったのか？"と尋ねます。御神はアダムに彼が言われたうその扇動者を

指し示しています。言い換えれば、"誰があなたを私から逃げさせているのですか？" "あなたと私の間に来たのは誰ですか？"

アダムは直接に問いかけられます。"食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか？" これは、シンプルな質問であって、単純な「はい」または「いいえ」を要求します。今では、アダムの心は神様のことを利己的で復讐心に満ちたものとして、そして自分自身は愚かで無価値と描写しているので、彼は2つと2つを彼の心にまとめて64を取得します。アダムは、もし彼がはいと言った場合、彼は厳しく罰せられると信じており、なぜなら彼は今、神様は復讐心を持っていると偽って信じているからです。もし、彼がノーと言った場合、一回は木から食べた嘘とその一回についたうそによって、二度罰せられると彼は信じています。逃げ道がないと信じ、アダムは自分を弁護し正当化しようとします。

"わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです"と彼は非難しました。あの男は自明に有罪ですが、彼はエバと最終的には神さまに非難の責任を転嫁します。これから来ることは何でも彼女と向き合うことを誓約するほんの直前に、エバのこの男に対するショックを想像できますか？しかし彼は最初のハードルでばったりと倒れてしまいました！罪は、他人を助け、支援するために無私無欲に自分自身を与える英雄的な姿を生み出すことはできません。それは常にすべての人を自分自身のものにする結果を得ます。

私たちはここで進行される過程を見逃したくありません。アダムの反応は、彼の罪悪感と不安定から動かされ、神様の品性の誤った概念と組み合わせになって、すべてが大きな誇りを持って一緒にかき混ぜられました。今、彼はもはや自分を神様の子供とは見なしていないので、「私が自分のために立ち上がらなければ、他の誰もそうしない」という哲学を受け入れなければなりません。彼はもう父がいないと信じているのでこれを思っています。ここに罪の大きな悲嘆があります: 御神はどのようにしてアダムに、彼が御父に対する偽りのイメージを持っていて、彼が無価値で愚かではないということを見せてあげられますか。アダムが客観的に推論するパワーを失ったとき、どのようにして彼自身の状況に対して、真の評価を与えることができるのでしょうか? 御神は真の知恵の唯一の源であり、アダムはその源から自らを断絶してしまったのです。そして、アダムが理性を持っていた時でさえ、彼の理性が真実と類似したものを猛烈に拒否する罪悪感と自負心の混合からどのように解放されるのでしょうか? アダムは、御神が自分に間違ったと告げることうまく扱うことができません。たとえそれが彼自身のために愛をもって行われたとしても、それは彼の不安が彼の理性をコントロールしているからです。

アダムとエバ彼ら自身が神から分離されてしまったら、彼らは絶望的に失われ、彼らはほとんど取り戻されることを超えていたことあなた方が見ていただくことを私の心からの祈りです。彼らはサタンの霊によって完全に統制されました。彼らの心において、最終的には彼らの子供たちがエルサレムで神のみ子を殺すことに傾倒した自

暴自棄な交際で、意地悪な天使たちと合流するように導く種が横たわっていました。それは完全には現れていなくても、彼らの心は神さまや御神の王国とは何の関りも望んでいませんでした;それに気づかずに、彼らは実際に彼を憎んでいました。

この時点で、あなたは次のように言いたくなる誘惑があるかもしれません。"ちょっと待ってください。あなたはちょっとやりすぎです。彼らに問題があったことは認識しますが、彼らが神さまを完全に憎むと言うのは物事を誇張しているのです。" それに应えて、私たちはすべての善良さと愛と知恵が神から来ることを継続的に記憶しなければならないと言いたいのです。それは人間の心から由来したものではありません。私たちがこの一番重要なポイントを忘れると、真実にこの話を読むことができませんし、それにまた私たち自分自身のことも、正直に理解できません。この点について聖書は非常に明確です。次の節を見てください。

なぜなら、肉の思いは神に 敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。ローマ人への手紙 8:7 口語譯

義人はいない。ひとりもない。(11) 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。ローマ人への手紙 3:10,11 新改譯

心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。エレミヤ書 17:9

聖書は、私たちの心が自然な状態においては、御神を憎んだりまたは神さまと戦争をしていると宣言します。彼らの自然な状態では、私たちの心は反抗的であり、彼らは御神の命令に従わず、そして私たちの心がこの状態から解放することは不可能です。私は私自身の経験の中で、そして私がこれらを共有した多くの人々の経験の中で、この真理に対する強力な抵抗精神があることを発見しました。人間の本性が神さまに対して完全に憎まれているという事実に対する抵抗のこの精神は、アダムが神に対して自らの失敗の責任を取るのではなく、エバと神さまに向け非難したとき御神に表した抵抗の直接的な反響です。アダムの不安は私たちの継承であり、私たちは彼ができる以上に真実を耐えることができません。もしあなたがこの考えに抵抗していることに気づいたら、なぜそう感じているのか自問してみてください。もし、あなた自分自身が安全であるならば、これらの声明はあなたに全く懸念はないでしょう。アダムの不安や空しさは私たちが継承です。これが彼が私たちに与えられる全てであり、それ以上のものではありません。

もし、あなたが人間の本性が神さまに敵対的であるという現実を抱擁できるならば、そしたらあなたは真の楽しみに直面するでしょう。私たちを救おうとする神の計画の文脈では、あなたが何も良い行いができないことを認識するには計り知れない自由があります。

あなたは試みるのをやめることができます。あなたはあなたの凶悪な本性が飛び出て、感情的または肉体的に誰かに打撃を与えると、あなたはあなた自身に暴行を加えるのを止めることが出来るのですが、私は先走りすぎています; 私たちは次の章のためにこれを維持します。

アダムとエバのところに戻ってくると、私たちは彼らと御神の間の壁を打ち破ることがとてつもない仕事になることが分かります。彼らの回復と、彼らの子供たちの回復には、いくつかの事柄が必要です。

1. 人類に彼らの絶望的な状況を真実に認識できる知恵を与える手段は彼らの選択の自由を違反せずに彼らのために正しい方向に影響を受けるやり方をともに提供。
2. 彼らに御神の品性と王国に対して誤った認識を持っていたことを彼らに示し、そして、何らかの形でその方が彼らを本当に愛していたことを彼らに何とかして示す方法。
3. 彼らの罪の意識と不安感を取り除き、御神の子供としての真のアイデンティティと価値を復元する方法。
4. 彼らの目的意識と彼らの存在理由または彼らの運命を取り戻すための方法。

5. 上記のすべてに時間が必要としました。アダムとエバは彼ら自身の命を没収されていたので、彼らには選択して決定する時間を与えるために生命維持システムが必要でした。
6. これらすべてを行う間、御神は正義感を維持しなければなりません。その方は彼らの反乱を不問に付し、それがオーケーであると言うことができません。御神の慈悲の中にいる間には御神は、彼らがした選択の完全な結果が彼らに降りかかることは許さないが、アダムとエバは、彼らは何をしたかの過ちを理解し始めるために彼らの選択の結果を理解しなければなりません。

ここで、私たちは重要な点を物申す必要があります。御神は驚きに巻き込まれませんでした。御父とみ子は、もし彼らがこの時点に来るようになったら何をするかをすでに決めていました。計画は既に樹立されていました - それはこの絶望的な状況を満たすのに十分な包括的な計画でした。

第7章. 天国のライフライン

人間的見地から可能な最も高い形の愛を説明するための努力から、ギリシャ人たちは アドメトスとアルケステイス (Admetus Alcestis)の物語を展開させました。²⁰ 使徒パウロはローマ書の中でこの物語をほのめかしています。

正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。
善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。ローマ人への手紙- 5:7

アドメートス王は彼のおもてなしと正義で有名で、彼の王国全体で愛されていました。神アポロンは、彼の父ジュピターによってオリ

²⁰ <https://en.wikipedia.org/wiki/Admetus>

ンポス山から追い出され、彼は彼の神性を片脇に置き、人となって、奴隷として人間に仕えなければならないと言われました。彼がこの地上に来たとき、アドメートス王は貧しい乞食としていた彼を見つけ彼を哀れみをかけました。彼は彼に食べ物を与え、彼の群れの羊飼いにし、彼を息子として扱いました。12 カ月後、アポロンは神的な状態に変えられ、助けてくれたアドメートスに感謝し彼に言いました。"もし将来、私の助けが必要な場合、私に尋ねるだけです"。

時が通り過ぎた後、アポロンはアドメートスのところに戻って、冥界の神ハデスがまもなく彼を要求しに来ることを知らせました。アポロンは、ハデスの妻ペルセポネーと取引を結んだと述べました。

誰かが彼の代わりに死ねる者を見つけることができれば、彼は死ななくても済むと言いました。

アドメートスは彼の両親のもとに行き、彼らが彼の代わりを進んで引き受けてくれるかどうか意向を尋ねました。彼らは言いました。
" 私たちはあなたを愛しているよ息子よ、君は善良で親切な人だけど、私たちは私たちの人生をもっと愛しています。私たちは、あなたのためには死ぬことはできません。 " 王は彼のために死ぬことをいとわない誰かを見つけるために彼の領域全体をくまなく調べてみましたが、彼は誰も見つけませんでした。アドメートスは自分の運命に身を任せた、その瞬間、彼の妻アルケースティスはアポロに泣き叫びました。「おお、愛するアポロよ、あなたは私の夫を祝福し、

私たちの王国全体で10倍の名声と財産を増やしました。アドメートスは実に良い人で、彼の人々は彼をととても必要としているので、彼の代わりに私が死にます! 彼は生きるかもしれないので "そして彼女はそうしました。 国中は善良な王の良い妻のために涙を流しました。彼女は善良な王の民衆から大いに愛されていて、王が生きられるように代わりに死んでくれた人でした。彼女がペルセポネの前に現れたとき彼女は彼女に哀れみをかけて、彼女が夫に示した忠実さに対する報酬として、彼女は再び生きるかもしれないと言いました。そして、アドメートスとアルケステイスが年を重ねるにつれて、アポロもやはり彼らの忠実さに対してほうびを与え、そして老年に死がついに彼らのもとに訪れたとき、彼らは彼のために死を迎える準備がされていました。

"これは"、ギリシャの哲学者たちは大声にて叫びました。" 人が友人のために命を捨てること —これこそがそこにある最も偉大な愛の形である!" 多くの人々が、この話をイエス様が下記のように言った彼のお言葉とつなぎます：

人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

ヨハネによる福音書 15:13

しかし、これは御神の愛の高さを表現するのではなく、むしろ人間に対する愛の限界に対した表現です。使徒は、人間の愛の限界に対するこの人間の物語を対比し、私たちに次のように伝えています。

正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。
善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。(8)しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。(9)わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。(10)もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。ローマ人への手紙 5:7-10

御神は、その方の み子イエスが私たちの罪によって傷を負って、私たちの不悪意によっていためられることを許可することにてその方の愛の深さを明らかにされました。御神は 彼らへの御神の大きな愛と情けから、御神はその方を憎んで軽蔑した敵のために、御神のみ子を与えました。これは人間の愛ではなく神聖な愛です。²¹

人類の創造の前に、御父とその方のみ子は、聖書が語る平和の一致と呼んでいることにおいて深い話し合いを交わしました。²²その時に、人類が彼らに対抗する選択をした場合に、何か起こるかに対して計画が立てられていました。今、もう、行動する時となりました。誰が神様の苦しみについて量り知ることが出来るのでしょうか

²¹ 詳細については、<http://fatheroflove.info/download/view/863> を参照してください。

²² ゼカリヤ書 6:13

か？ 神様はその方のみ子をアダムとイブの身代わりとして、彼らが選択した結果の代価を支払うことを許可していただけるでしょうか？ 神様は、その方のみ子が彼らの無価値と絶望的なそれらのみ子自らに引き受けて墓場まで持っていくことを許すでしょうか？ 御神はその方のみ子がアイデンティティの完全な喪失と苦しむ彼の心から「"どうしてわたしをお見捨てになったのですか？"」という悲痛な言葉に御神のみ子としての地位の切断に苦しむことを許すでしょうか？

私がこれらの文章を執筆している間、息子は穏やかに私の真向かいに座っています。私は振り返って彼の美しい顔を見て、彼に対する喜びと愛の感覚が私の胸にわいてくるのを感じます。それから私は自分を神様の代わりに置くことを想像しようとしません。そして私の息子が私と私が支持するすべてのものを今では憎んでいる人々のグループのために自ら招いた自傷的な死刑を取ることに許すのです。私は、私の心がそれらの考えをただシャットダウンしてしまいたいことを告白します。私は自分自身がそれらを考えることすら許さないでしょう。私はその考えるだけさえそれが私を崩壊させそうな原因となるので、それを私が対処するにはあまりにも苦痛であることを承知しています！ 私の考えは神様と彼のジレンマに戻り、私はしびれていると感じます。私はそれが起こることを許可くださった神様に最も深い感謝の気持ちを感じられます。

私が神様の敵としてありながら、御神のみ子イエスの代用犠牲を通じて命を提供されてきた私がそんな人々の一人であることを知って

います。この思いは、常に私を一時立ち止まらせ、その方の無限の愛と犠牲に感謝してその方を崇拜させます。

私は、後に人となったイエスである御神の御子が 私たちのために、このようなことを進んでやってくださったことに私は驚いています。聖書は、神様が初めから終りを知っていて、御父はこの知識をその方のみ子と共有していたと教えてくれます。いったん、罪が宇宙に感染すると、御父はそれがどこにつながるのかを正確に知っていました。キリストは、彼がこの地上にいらっしゃった時、何が彼を待っているかを見ることができました: 拒絶、殴打、嘲笑され、憎悪、呪いと 悪口、十字架の上での裸と暗黒、そして何十億の魂の無価値さが彼に山積みとなって、そして何百世代にも渡って蓄積された罪悪感と悲哀がありました。その方はその全てを見ていたのに、しかし、御神の御子はこうおっしゃいます。" わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります" と²³ 御神の御子はしぶしぶ来ることを同意したのではなく、むしろその方はそれを望みました。その方の心は、イエスさまの御父の心のように、子供たちを彼らの運命になる喜びの充滿な状態に取り戻すことを切に憧れています。これはどのような種類の神ですか? 私たちはその方を誰と比較するべきかそして、どのような言葉がその方を賛美するのに足りるのですか?

私たちは、アダムとエバが真実を誤りから識別する生命維持システムと能力が必要であると最後の章に記しました; 彼らは御神について

²³ 詩篇 40:8

の真実を見て、サタンが彼らに言っているうそを感知し、暴露し、拒絶するための助けが必要だったのです。彼らは彼らが真の精神的な北が識別できることを助けるために、道徳的な羅針盤を必要だったのです。

これら全てのものは、世の中に神様の御子イエスからいただいた賜物を通じて提供されるでしょう。このことは、創世記 3:15 のアダムとエバに語られました。神様はサタンに直接語りかけて次のように言っています。

わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。 創世記 3:15

この聖句は、約束と希望に満ちています。御神はサタンとの間に恨みをおくと言いました。神様が女について語るとき、その方は彼女から出てきますものすべて、言い換えれば 全人類の家族について語っておられるのです。恨みという言葉は、憎しみまたは敵を意味します。²⁴ 御神は悪を憎み、善性と真実を望む何かを、人類の家族の心に置くでしょう。神さまがこのような、これをなされる理由は一つしかなく、それは、御神の御子が地上にいる間にその方の生と死を通じて、人間の家族を和解させようとなさったからです。これは、女のすえとサタンのすえとまたは子孫との間に存在する憎し

²⁴ Vines Expository Dictionary – Enmity(エンミティ)

みを意味されるものです。ローマ書の中でパウロは次の節で、この悪への憎しみを、恵みまたは力と言及します。

しかし、恵みの賜物は罪過の場合とは異なっている。すなわち、もしひとりの罪過のために多くの人が死んだとすれば、まして、神の恵みと、ひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、さらに豊かに多くの人々に満ちあふれたはずではないか。ローマの信徒への手紙
5:15 JHB

何が正しいかを選択できる能力は、神様がその方の御子の賜物を通じて私たちの心に置いたこの敵意から直接もたらされるものです。この同じ賜物はまた、切実に必要とされる命の賜物を提供します。
²⁵ パウロはまた、ローマ書の同じ章でこの事実を参照しています。

このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。 ローマ人への手紙 5:18

これは、平和と喜びを尺度を超えてもたらすことができる信じられないほどの真実です。上記の事実は、あなたが取るすべての呼吸が

²⁵ 私たちがここで生命について参照する時、私たちは保護観察的な生命に関するものであって永生に関して話しているものではありません。神はこの地球上のすべての人に、神とその王国に対する真実を選択したり拒否できるように命を与えられました。

（御神の御子とその犠牲を信じようが信じまいがにかかわらず）直接にイエス・キリストから来たことを意味します。あなたの心臓をときめかせ、あなたを呼吸させ、あなたを生かしているのは、御神の生命です。私たちの側では非自発的と言及するすべての機能は、実際には神の側にとっては自発的なものです。神様は、次のように話す真理の核心です。

こうして、人々が熱心に追い求めて 捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れて おいでになるのではない。(28)われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。使徒行伝 17:27,28（一部）

イエス・キリストの十字架での彼の死を通じて私たちのための仲介の徳で私たちはイエス・キリストの命によって支えられているので、御神は私たち一人一人から遠い存在ではありません。御神から遠く離れていると感じているなら真実は神様は決してあなたから遠く離れていないということです。 その方があなたから去っていないことを知るためにはあなたはただあなたの脈拍を感じなければなりません。

ここに神様が私たちの心の中に正しいことを行いという願望と悪に抵抗したいという願望をいれ込むという事実を加えることになると、ならば、真に私たちは感謝すべきことがたくさんあります。あなたが何か間違ったことをしたくなる誘惑におちてから、それをよりよく考えたり、またそれをしなかった時を考えてください。これは御

神があなたに与えられた賜物であり、悪に反している敵意でした。あなたが御神の存在を信じるか信じないかは関係がありません。あなたがそれを行使すると選択したときに、あなたは変わらず イエス様を通じて、この賜物を与えられています。私たちは聖書の中で御神は雨を正しい者にも正しくない者にも降らせてくれると言われています。²⁶サタンがあなたに何かをしたり、所有物を奪おうとする邪念を誰かの心に何度、配置したのか考えてみてください。そして、御神によって彼らの心に配置された敵意が、彼らがそれをするように励ましてくれました。もちろん、私たちはまだその促しを即に拒絶し、先に進んで悪を犯すことができる選択を持っていますが、しかし、その敵意がなければ、私たちの誰もが心の中に置かれた邪悪な考えを実行するのを止めることが出来ないでしょう。

私たち皆のためにこの全てのことをしてくださるなんて、なんて驚くべき御父でしょうか！ 人種として私たちは完全に道に迷い、サタンの邪悪な方法に奴隷になったのです。私たちは自分自身を助けることの限界を超え、絶望的なみじめさで完全な破壊に運命づけられました。しかし、私たちの慈しみ深い天の御父は私たちをあきらめることを拒否してくださいました。御神は私たちにその方が持っている最も大切なもの – すなわち御神のみ子を私たちに与えてくださいました。

²⁶ マタイ 5:48

イエスさまは永久に人間家族の中の一人になるのであり、私たちの一人であるのです。それは私たちに残った部分の永遠のための勉強と黙想の中心的なテーマとなる犠牲なのです。

これらのことについて考えてみると、御神があなたのためにしてくださった全てのことについてどのように感じていますか？ 御神の霊は今あなたが御神を受け入れ、その方についての真理を信じるように引き寄せています。御神はあなたを、御神があなたを心から愛し、あなたを取り戻すために全てを与えてくださったことを知ってほしいと願っています。私はこのような愛に抵抗する事はできません。それは私にとってあまりにも見事で抵抗しがたいです。 あなたはどうですか？

第 8 章. 二つの王国の比較

次に進む前に、現在世界に存在する二つに分離され異なる王国を要約すれば役に立つでしょう。; 御神の永遠の王国とサタンの王国は、エデンの園でアダムとエバにそれら両方とも提示されました。王国を定義するものについて何かを考えてみると、私たちが考慮する必要がある次の3つの属性があります:

1. **政府**: システムによって王国が支配される。例えば、民主主義や独裁政権。
2. **通貨**: 王国の市民の彼らが商品を交換できる価値体系。
3. **市民権**: 誰かがどのようにしてその王国のメンバーになれるかどうかを決定する方法。

私たちは次のような方法で二つの王国を対照できます。

	神さまの王国	サタンの王国
政 府	家 族	強 者
通 貨	愛/慈悲/自由な選 択 /神への信 仰	パワー/資産/強要 /自己への信仰
市民権	神さまの子供	パフォーマンスと達 成

御神の政府は家族制度に基づいています。御神の政府は家族制度に基づいています。政府の首班政は御神の御父です。御神の政府は家族制度に基づいています。政府の首班政は御神の御父です。指導者と市民の関係は密接で親密です。一方サタンの王国は、自分が最つわものであることについてです。最も強い者は支配する者であります。民主主義であっても、自分のメッセージを宣伝することに最も強く、有権者を説得することに最も強い者が権力に登ることになるのです。

御神の王国は、その関係の強さに基づいて取引されています。愛は天国の貨幣です。市民は彼らの御父の愛で安全で、彼らの評価や価値を証明する必要はありません。彼らは隠された議題なしで、無邪気にお互いの同行を楽しむことができます。御神を知っていくことを学ぶことが最高の喜びであり野望であり²⁷、なぜなら御神の知識

²⁷ ピリピ人への手紙 3:9,10

と知恵と品性は無限であるため、この楽しい活動は決して終わらないでしょう。御神について学ぶべきことが常にあるでしょう。その市民たちは、御神について直接または御神が作ったものを通してその方について学びます。したがって、お互いを観察し自然と宇宙を研究することも、この王国にいる喜びに満ちた部分でもあります。すべてが、私たちの御父である御神から来ていることははっきりと認められているので、すべての創造物は喜びに満ちた感謝の気持ちをもって御父を崇拜します。²⁸

これとは対照的に、サタンの王国は資産を取引しています。価値は私たちが成就したことに由来するものなので、価値があるものになるためには資産の蓄積が活気なのです。これらの資産は、物質的・精神的または関係的であり得ます。家が大きければ大きいほど、所有している物が多ければ多いほど、あなたはより多くの価値を持ちます。教育のレベルが高いほど、あなたが持っている仕事の職位が高いほど、あなたはより多くの価値を所有します。その人々はあなたの大義に大きな資産になる可能性があるので、あなたが関連する人々は非常に重要です。サタンの王国は、人々は内に力を持っていると信じているので、他の人々を所有することであなたをより強力にすることができるのです。人々との関係は、私たちがより多くを得られる道具になるのです。これにより、他の人をコントロールする必要性は非常に重要です。他の人々を、統制できる多くの方法が

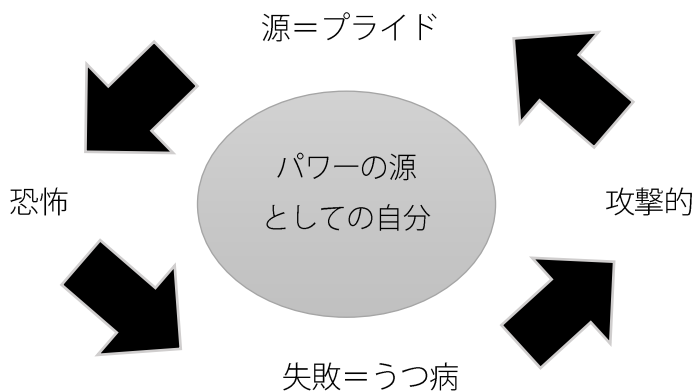
²⁸ ヨハネの黙示録 14:6,7 • 4:1-9

あります。親切でフレンドリーであることはよくある一般的ことです。それは、常に販売員たちによって使用されています。偉大な行いを実行することは、人々があなたを付いていくように印象づけることができ、そしてこれらが失敗したとき、あなたは武力、恐喝、脅迫を使って人々を統制し、彼らの忠誠を確保できます。これは、今日、非常に多くの人間関係が苦痛と悲哀に満たされている理由であり、なぜなら、しばしば、人々は自分の力と価値を高めるために一緒に団結して加わっているからです。

私たちが注目したもう一つの対照、それは市民権です。神さまの王国では、あなたは単に 御神の子供になることによって市民と見なされます。暮らしの事情や困難と関係なく、この事実は決して変わりません。あなたの市民権はあなたの御父である御神とあなたの関係において安全なのです。サタンの王国では、あなたはやっているかないことによって市民とみなされます。達成と怠惰のいずれも、それらをあなたが実行を行うことに重点を置く限りあなたに市民権が与えられます。この王国では、あなたは毎朝目を覚まし、あなたが自分自身について良いと感じるために、その日に何を達成しなければならないかを考えます。もし人々があなたが成し遂げようとする努力をじゃましたら、あなたは挫折し怒ります。もし一日が終わる頃に達したとき、多くのことを達成していないと感じたら、あなたは空虚さを感じ、いずれかが落ち込んでしまうか、またはより断固とした気持ちを抱きます。人生とは誇りと無価値を中心に展開する循環です。あなたが達成すると、あなたは誇りになり、失敗したときにはあなたは価値のない感じを持ちます。成功と失敗の間にあ

る人生は、達成しようとする動揺した決意か、逆に言えば達成させたものが失うだろうとへの恐怖です。それはあなたが死ぬか、王国を変えるまでは決して終りのない循環です。

サタンの王国での感情サイクル



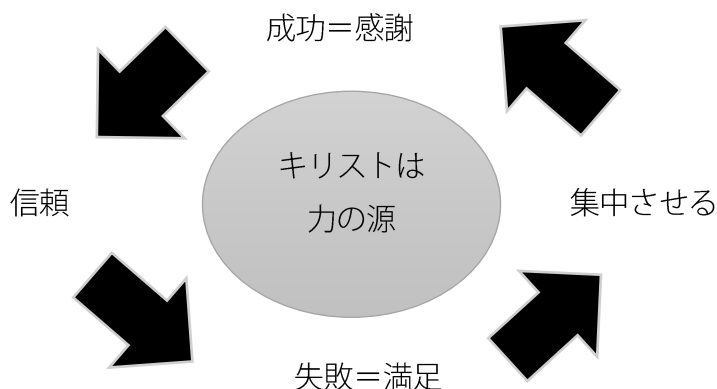
このサイクルは、私たちが自分自身の中に力があると信じることの単純な結果です。

もし、私たちが自家電動ならば、私たちは誰にも依存されず、誰からも価値を獲得できません。私たちは私たち自身の価値を培養し、生産しなければなりません。すべての成功は、私たちを検証したり、すべての失敗は私たちを追い詰めさらに無しの状態に近づけます。

私が初めてプレゼンテーションをやり始めたころ胸の中の葛藤を覚えています。私は、人々に聖書の真理を示し指摘したとき、本当に祝福を受けたような気分を感じましたが、しかし、彼らが列をなして外に出る時、私は人々に挨拶するためにドアの前に立って、彼ら

が私によくやったと言ってくれることを望む自分自身を発見しましたし、私がしたことについて検証してほしいと思いました。私は上手に説教すればするほど、私の心はより多い承認を望みました。私はこんなふうを考えることは間違っていると知っていたので、それでしばらくの間、人々から私に向け話が上手だと言ってもらった時、“御神に感謝してください。私に感謝しないでください。”と言ったりしたが、それはしばしばぎこちなく見えましたし時には人々は私が彼らを押しつけていると感じたのです。私たちがすべての善良なことが御神から来ており、私たちが行うどんなこととは別に御神によって私たちが大切に評価されていることを認識しているとき、私たちは自分に価値がないと感じ、他の人からの検証の必要性を感じることにについて何の心配もなく、成功し、失敗する自由があります。

神さまの王国における感情のサイクル



御神の王国の構成員は自分たちの業績から価値を得ることはできませんが、それでも達成できるということを彼らは覚えておくことが

大切です。実際、彼らには遥かに多くのことを達成する収容力があります。なぜなら、もし彼らが失敗しても無価値の恐怖に直面する必要がないからです。彼らはまだ愛されていますし、彼らが成功するか失敗するかに関係なくまだ御神の子供です。御神の王国はあなたとの関係を離れずあなたの価値を破壊することもなく、あなたの完全な可能性を最大限に達成できるよう最善の方法をあなたに提供します。私たちは、この二つの王国の本質の輪郭を簡単に示しました。本書の残りの部分で、私たちは、これらの王国が人類歴史の範囲内においてどのように展開してきたのか、そして私たちがしばしばこの二つの間で暮らし直面する闘争を追跡するようにします。どちらの王国も自由を提供し、どちらの王国も多くのことを約束しますが、どの王国があなたに揺るぎのない意義と価値を深く感じさせながら残してくれるのでしょうか？

第 9 章. バビロンの心臓

"私たちどこで間違ったのか?" 今、直面している現実を理解しようと苦労している父親の胸の痛む叫びです。"私たちは良い家族の状況であり、彼は私たちが彼を愛していることを知っています" と父親は続け、息子が麻薬密売、窃盗、殺人の疑いで有罪判決を受けたばかりの理由について父親は必死に説明を求め続けています。

その悲痛な叫びは、私たちがあえて想像するよりも何度も発声されています。; 反抗と邪悪な生活に陥った子供の恥と苦しみとともに生きる両親たちです。この悲痛な叫びの源は、私たちの最初の両親と彼らの初の息子カインの悲劇からその痕跡をたどることができます。親たちは、アダムとエバが最初に幼いカインを腕に抱いたときに感じた喜びを知るでしょう。彼らの愛の結晶は今や彼らの保持で楽しむことになりました。エバは彼女の新しい大切な包みを抱き彼女は

叫びました。"わたしは主によって、ひとりの人を得た！"²⁹ エバは、カイン彼が創世記 3 章 15 節で言及されたその約束されたすえになり、すべての国に癒やしと祝福をもたらすと信じました。ああ、もしそれが真実であれば、エバにとっての苦い皮肉は、カインの遺産は何百万人もの人々に悲惨さ、破壊、死をもたらすだろうということでした。カインは、彼ら自身の条件で彼らの精神的な経験を行う崇拜者のクラスの頭になりました。この人々のグループは、世界の人口の大部分を占めています。これは、聖書が後にバビロンというコードネームを付ける人々のグループです。

この章で私たちは、このグループの背後に隠された原動力とそれがあなたや私にどのような影響を与えるかを追跡します。

"パパ、どうして私たちがあのかわいそうな罪のない子羊を殺さなければならないの？" 子羊を殺すことは、人間の家族の前にキリストに対する彼らの自然な人間の感情の現実をキリストに向けしがつて悔い改めの必要性を留め置くように設計されました。したがってそれは御神が喜んで支払ってくださった代償を明らかにし、私たちが私たちの状態を見て、聖霊の導きを通じて赦しを請うためです。私たちの救いのために、信じられないほどの贈り物がささげられたのでしょ。それは、ささげ物としてささげられた瞬間の、キリストの苦難を直接指し示す儀式でした。それはまた、キリストが御父を明らかにするために、この地上に来る時のことを望みで前方へ指

²⁹ 創世記 4:1

しました。それはまた、エデンの園での墮落以来、人類がキリストに行ったことに対する羞恥心を逆に指摘しました。それは両方、御神の驚くべき愛を思い起こさせる慰めであると同時に、人間の恩知らずと利己主義を痛感させるのでありました。この取り扱いに参加することは、常に複雑な感情を生み出すでしょう。罪のない子羊の顔を凝視してその沈黙の苦しみを見ることは、利己主義と自己意志の対価が確実に納得することでしょう。真の御神の子羊の顔をのぞき込むすべての人々にとって、希望は常に、人間の本性がキリストに対して何をするかを理解することに伴う魂の苦悩とともに混ざり合っています。十字架に対する自然な人間の対応はそのような分離がそもそも起こったことを否定することにて人間の起源を起源を書き換えるか、そうでなければ御神が罪に対するその方の怒りを満たすために必要な何かで御神が死を要求するのです。ほとんどの場合、十字架は光から闇に変形させたり、さらには悪いことに、希望の象徴として提示しながら描かれています、実際には強い嫌悪を引き起こす操りの象徴として、より悪く描かれています。

長い年を経て、彼の両親が子羊を殺すのを見守って、彼らの涙と悲しみが結合して来るべき彼らのすえ（子孫）への希望、忍耐、そして自信と結びつくのを見てきたカインはこれ以上謙虚さと悔い改めの必要性に耐えられないと決めました。殺された子羊が露出させる人間の失敗に焦点を合わせることで、カインはそのような贈り物における御神の大きな愛を覚えないことを選ぶようにしました。カインにとって、子羊は彼の不安感をかき立てるだけでした。それは彼

がサタンからそれを受け取っていた彼の父親から受け取っていた生得権の一部でした。カインにとって子羊は、自分が御神に受け入れられない存在であり、彼の行動が御神に認められていないことを告げただけです。明らかにサタンはカインに彼の拝から子羊を殺すことを取り除くという大胆な一步を踏み出すことを奨励しました、したがって彼自身の行うことによって悔い改めの必要性を取り除くことによって御神との関係を再定義しました。

私たちに聖書は、カインが主に地の産物の供え物を持ってきたと言います。³⁰ 私たちはまた、カインが彼の仕事の一環として食品を生産する農夫だったとも述べられています。カインの供え物は、彼の手の働きによって御神の尊敬を得ようとする彼の努力の象徴でした。彼は自分の崇拝の経験を謙虚な信仰の一つから高慢を表す一つへと、親密な信頼関係から契約上の宥和へと変換させています。そのような宗教は、私たちが神様との交渉力を持たないという事実を無視しています。； 私たちには、私たち自身の条件で御神に会って休める私たち自身の人生はありません。悲しいことに、カインはこれを忘れました。サタンは、子羊による罪の確信から自分を解放するという自由を彼に約束しましたが、子羊をとり除くことでカインの宗教は、真の御神との信仰関係から、彼自分自身の考案で作られた神にささげる一連の儀式に基づいてパフォーマンスに変わってしまったのです。この変化の中でカインはデュラセルの木の毒を受け入れ、彼は仕事のパラグライダーに乗って飛行し、彼はさわやかな自由感

³⁰ 創世記 4:3

を経験しましたが、パラグライダーがその限界に達し、墜落するのは時間の問題でした。

第 5 章では、家族関係の崩壊がもたらす感情的な傷のいくつかを見てきました。ここに要約があります。

- 絶えず承認を求める
- 彼ら自身を厳しく判断しすぎる
- 統制出来ない状況に過剰に反応する- つまり、多くの場合、彼らは制御が非常に困難。
- 関係に問題がある。³¹

カインが彼を救うために神の任命された計画から離れたとき、彼は神から距離を置くようになり;彼の家族関係は完全に決裂してしまいました。この距離は、彼の不安に炎をあおら

せました。御神の霊はもはや彼の恐ろしさを落ちつかせることも、サタンのうそを反論するのを助けることもできませんでした。空虚さは増すだけで、恥辱感が増殖になりました。サタンのようにカインは御神との壊れた関係に対する感覚を置き換えるために、無駄に苦労しました。どんなにがんばっても、彼は感情的に御神と、そのお方の王国、そしてその方の計画に戻るまで、決して深い空虚感を取り除くことはできませんでした。

³¹ コンウェイ, 31

カインの激動な感情はまもなく噴出することでしょう。それは、カインと彼の弟アベルが御神を崇拜しに来た、決められた犠牲の供え物の時間に起きました。御神はアベルの子羊の供え物を火で焼き尽くすことによって受け入れましたが、彼はカインの供え物は手をつけずにそのままにして置きました。カインを怒らせるために必要だったのはそれだけでした。罪とは極度に非論理的なものです。カインは指示に従わず、それが自分がにとってうまくいかないとひどく動揺します。

お店に行って、ひとかたまりのパンを焼くための材料をすべてを揃えることを想像してみてください。あなたがお店の人にそれをどうやって焼くのか聞くと、彼は持ち帰るリストをくれます。イースト菌の匂いを嗅いでみて、それがないとパンのほうが良いと判断するまで、すべてが順調に進んでいます。あなたはそれをオーブンに入れ、しばらくしてあなたは非常に悲しい一塊の平べったいパンを得られます。さて、パン作りに失敗したからといって、激怒して店の人のところに駆けつけて、彼に暴言を浴びせるなんて話になりますか？ 絶対に～ない！ しかし、これはまさにカインが御神に対して行ったことなのです。

カインは戻って来られないところへと近づいています。彼の価値が彼の努力とパフォーマンスによって決定されるサタンの王国を受け入れたことで、彼の導きと誤りを矯正する能力は急速に減少します。カインは自分が間違ったことをしたと知っていますが、人間の心は

簡単に自分を欺くことができ、謙虚に御神に服従するよりは、彼は腹が立つようになるのです。穏やかな御神は彼を助けて、正してくださり、約束された御子のたまものへと彼を導くことを求めますが、カインはその警告に耳を傾けませんでした。彼の反抗感情は高まり、暗黒の王国は最も成功した人間実験をほぼ完了しました。

今ここではカインの心は、天でサタンが放出したその感情的な力によって完全に支配されています。カインは御神の承認を願っていますが、それは自分自身の条件によるものです。彼の無価値感は彼が爆発する準備ができたところまで増加した。彼は、受容と価値に対する彼の欲求を満たすより高い権力から承認を渴望する恐ろしい状況に置かれていると同時に、御神に彼は自分がすべてのことを負っていて、子羊を通じた彼の愛らしい提供に謙虚に感謝しなければならないという事実を無視したがります。アベルの前で"公に屈辱を与えられる"ことについてまだくすぶっていて、彼は彼と議論し始めました。アベルはカインに彼の拝む方法について訴え、彼に神の計画に戻るよう勧めます。これがカインが必要としていた全部でした。何かが彼の中でポキンと折れました。彼の無価値感は彼をもはや気にしないところまで追いやってそしてその瞬間が来ると、サタンは完全に自由なエントリーが与えられ支配権を握るのです。サタンはカインを弟に対する強烈な憎悪で満ち、家族関係は忘れられ、そしてサタンの王国は今や完全にその自体を現しています。すべての天が最初の殺人を見守っていて、神聖で大切な関係の最初の消滅が起きました。だからこれは御神の法が違反される時に起きることで

す！天はあえぎ、サタンと彼の天使たちでさえ命のない形のアベルがその血で地面を赤く変えたとき、瞬間的なしびれを経験したに違いがありません。

サタンはこの出来事の恐怖を払いのけ、彼の奴隷を確実にしておくために罪悪感をカインに深く押し込んだので、御神が自分を赦してくれるとは決して思えないようにしました。これがサタンの狂気です。サタンは、彼の反逆の道をたどるときには、私たちに自由と幸福を約束し、私たちが違反すると、彼は大声で御神に私たちの破滅を要求するのは彼の声です。それと同時に、私たちが邪悪すぎて性悪であり、御神に二度と受け入れられないことを私たちの魂にささやくのは彼の声です；私たちの罪悪感を私たちが死にたいところまで高めるのは彼の声です。こんなに美しい天使が、そのような惨めな破壊者に変換しなければならないのか、どんなに悲しいことでしょう。カインは完全に一線を越えてしまった今、彼の魂を弁護することができず、サタンは彼を追いつめ「わたしの罰は重くて負いきれません。」³²と鳴き声を上げます。これらは想像できる最も悲しい言葉です。御神は、カインを断ち切るためではなく、彼を取り戻すためにカインのところに来ました。御神はカインに弟の居場所を尋ねましたが、それはカインを非難するためではなく、カインに悔い改めて御神に引き返る機会を与えるためでした。悲しいことに、カインは「「わたしの罰は重くて負いきれません。」という悲痛な言葉を口から発しました。

³² 創世記 4:13

彼は御神のお言葉よりむしろサタンのうそを信じたのです。彼は種をまき今、彼は収穫したのです。

創世記4章11節で、御神はのろいを宣告されます。呪いの次の節で御神はカインに、さまよい、さすらう者になると告げます。呪いの次の節で御神はカインに、さまよい、さすらう者になると告げます。これらの言葉は、揺れ、よろめく人の事です ;それは希望も未来もない者の感覚を与えます。この呪いは、天の何らかのつえを振ったことで御神によって適用されされたことではなく、呪いは御神の家族の王国の拒絶したこと、親密な関係の拒絶したことに内在する呪いでした。彼の魂は、彼は親密さのために創造されたため拷問されましたが、彼の心は別の道を選び – 愛に渴望しながらも、自分に近づく人々をいつも拒絶し、親密さが欲しかったが彼の無価値さが宿る心の秘密のチェンバーに決して人を来させることはできませんでした。友達を欲しがりながらも、自分の腕前に対抗するライバルに警戒していました。ここに、"よこしまな者には平安がない"³³ ということわざの真実が横たわっています。

聖書は、私たちに "カインは主の前を去っていた"と教えてくれます。³⁴ 彼は今、御神が彼から近くにおられるということを感じずに生きていました。彼の罪が彼を御神から締め出したと信じる中で、彼は実際に御神を自分から締め出しました。今や彼は、承認と価値に対

³³ イザヤ 57:20

³⁴ 創世記 4:16

するこれまで以上に大きな必要性を持って、彼は都市を建設し始めました。彼は自分の周りに人々を集め、彼自身は彼らの指導者になるのです。彼は偉大な建物を建て、自分が達成したものから彼の価値を導き出すでしょう。彼は自分の手の働きの仕事で自分を取り囲むようにして彼自身ができる限り意識から、御神の行なった働きの証拠を遮断させるようにしました。彼は自分の魂の状態について、自分自身に聞く時間がないほど彼は忙しく過ごしているでしょう。

こうして、カインは地球上にサタン王国の設立のための経路になりました。彼を通して、不安と無価値のすべての兆候を示した一種族の人々が発展しました。彼らは権力と地位の探求者たちであり、天と地を造られた御神とは別としてのアイデンティティを限りなく

追及するために、どんなライバルにも嫉妬心を抱く統制する精神を発展させました。サタンは、人間が偉大な関係と個人的な御神の腕の中にいるよりは、彼ら自分自身の中で価値を追求する人間たちを保つことができる限り、彼は彼らをコントロールすることができたのです。そして、彼はそのようにしたのです。長い時間の時代を通じて、サタンは彼の支配下にある部類の人々を抱えながら、彼らの無価値で不安定な魂を彼自分の魂に縛り付けておいて、彼はこの世の中を支配しようとしてきました。

私たちはバビロンの心臓部、それが行うことによってアイデンティティと価値を追求し、その偉業の承認を求めて、脅かすことが出来ないように状況を操作しようとする試みる拷問を受ける心を研究し

てきました。次の章では、この心が人類の歴史を通してどのように
具体化し、発展していく過程について追跡していきます。

第2部・一つの運命
－取り戻したアイデンティティ

第 10 章. デュラセルの連鎖を断ち切る

彼らがお互いを抱きしめている間、長い止まりがありました。感情の激しさは深いものだが、彼らは二人とも時が来たことを知っていました。永遠の日から御父と御子は常に互いに親密な交感を交わしながら、そして今、その交感はずぐストレスを受けてとうとうついに破れました。御神の御子は今彼のの人間の息子や娘を取り戻すという使命に乗り出すことになっています。御父と御子の二人とも、そのリスクとそれに伴う代価を理解していますが、愛によって彼らを駆り立てます。

ほんの一瞬、御父と御子は未来を見つめ、予言的な目で使命が展開するのを見守ります。あざ笑い、拒絶、憎しみ、唾吐き、けられ、むち打たれとそして釘打ちは、すべてが青ざめて天と地が静止して御父と御子の分離を見守るあの恐ろしい一瞬と比べれば何でもないのです。御子は、自分の上に転がされる数千年に及ぶ罪悪感、苦し

み、反抗、無価値を観察し、罪によって引き起こされた父の隠された顔の感覚によって、まるで葉っぱのように引き裂き、引き裂かられる自分を見守るのです。御父は暗闇の中でその方の御子と一緒にいますが、私たちの見捨てられた感覚を死の恐怖の中に運ぶのは御子なのです。³⁵

抱擁は締め付けられて - どのようにこの運命に御父は御子を与えることができますか? より深いレベルでは、彼らは両方とも罪の力による失敗と永遠の損失の可能性と格闘しています。御神の御子は彼の最大のライバルであるサタンが彼を圧倒する機会の窓口を提供する人間の本性をその方自身が自ら引き受けるようになるのです。成功に対する保障はありませんでした。彼らはどうやってそのような危険なリスクに乗り出すことができたのでしょうか? 彼らはどうしてそんな息を呑み込むような計画でさえ考慮することができたのでしょうか? それでも、アガペーの愛は彼らを駆り立てます。

永遠に続くかと思われたあの長い休止がようやく終わって; 彼らは両方ともその計画を遂行することを決意します。御神の御子は、天の端に歩み寄り、最後に愛情深い御父の顔をのぞいて、それからその方は立ち去ります。

第 6 章では、私たちは御神がもしその方の息子と娘たちを地球上で救うとしたら御神がどんなことに対処する必要があるか長くて挑戦

³⁵ ヘブル人への手紙 2:9

的な目録を見ました。第 9 章では、人間の心の中にあるサタンの王国の発展と、サタンが私たちの無価値な感覚を通して私たちをどのように支配しているのかを見ました。もしイエス様がその力を打ち破すとしたら、その方は無価値な感覚を取り除かなければなりません。その方は、御神の子供としての私たちのアイデンティティーの感覚を再び結びつけ、デュラセルの木から考案された偽りのアイデンティティーを克服しなければなりません。

天使たちが羊飼いたちにメシアが来られたというその喜びの賛歌を歌うのを見守って、サタンの深い不吉な予感はその心をつかんだに違いないでしょう。博士たちを低い馬小屋に導いた輝く星は、何の慰めを与えなかったはずでしょう。彼がこの高貴な幼児を見つめながら、彼がけんかに参加していたと知ったこと、想像することができます。彼は、その子供の上に覆っていた平和な静けさを壊すことができませんでした。彼は常にすべての前の子供にはそれを行うことができました。それはパズルでした;その子は肉と血で作られたが、子供に深い平和が臨んでいて彼が完全に邪魔することができませんでした。

サタンは自分が苦境に立たされていることを知りました。

この悩ましい霊はヘロデの心に寄りかかり、私たちは暗い霊の世界をかき立てる混乱への窓口を与えられました。ヘロデを支配していた深い不安感は、天の御國に対するサタンの「衝撃と畏怖」キャンペーンの格好の餌となりました。彼は本当のコンテストが始まる前

に、彼を連れ出すでしょう。しかし、幼児の王の平和的な自信は見当違いではありませんでした。摂理は、御子が御父についての真実を明らかにし、暗闇の支配者を暴露し、人間の肉体において、絶望的の人類を奴隷にした不安の鎖を断ち切ることができるように、彼のために脱出の道を用意したのです。

イエスさまの生涯は次の言葉で要約することができます：

わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。
わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている
から、わたしをひとり置きざりになさることはない」。
ヨハネによる福音書 8:29

サタンがどんなことをしたかは関係ではないが、その尊厳と自信感を壊すことができませんでした。キリストは、サタンさえも畏敬の念を抱いた忍耐さで御神の御子としての関係にしがみつきました。サタンはキリストを罪に移動させようとした彼の無駄な努力に激怒したに違いがありません。四千年の間ありとあらゆる人を欠かさず成功した後、サタンは、御神の御子としての立場の中で自信を持った人間精神という堅固な壁に突進します。御子であることは勝利の鍵でありました;御子であることは人類を溺死させている無価値さの激流に対抗する最も確かな要塞でした。ですから、御子であることはキリストとその方の攻撃者との間の対立の焦点であるに違いありません。

ナザレの町は興奮に包まれています。洗礼者のニュースは急速に広がっています。メシアの先駆者がいらっしゃいました。そしてそのメッセージがあの大工の店に届くと、イエス様はその御父に栄光をもたらす時が来たことを知りました。彼はノミとのこぎりを置いて、母を抱きしめて、ヨルダンの方へと向かいます。

イエスは御神の御子であることに自信を持っていますが、荒野の来るべき紛争は、以前に

誰もテストされたことがないように彼を試してみます。人間の悲惨な門は、破裂するダムのようにその方に向かって放出されるでしょう。イエス様は人間の無価値さの完全な力に直面し、堅実にとどまらなければなりません。もしその方がしっかりと立つことができれば、それならば、誰かが初めてデユラセルの鎖を断ち切ったはずで、この勝利の成果はその方を信じる人々の相続になるでしょう。

荒野での戦いは、十字架の働きの基礎を成すことでした。人間の精神が彼の無の鎖を断ち切ることが出来なければ、許しの申し出はどのような用途ですか？ 男性や女性、または子供がその賜ものを受け入れる力がなければ、愛の最も美しい啓示はどんな利得があるのでしょうか！ デユラセルの無価値さと無は最初に克服しなければならず、勝利の戦利品は人類の手に委ねなければなりません。それですべての人々が十字架の比類のない賜ものを受け入れる力を与えられ、御

神が彼らを愛し許してくれるということを本当に信じる事ができるようにです。

御父は何が来ているかを知っており、彼は武器を持つ軍隊の使用ではなく、強力なディスプレイではなく、戦いのために彼の御子の手を強化するでしょう。これらのどれも来たるべき敵に会うことはありません。神はその方の最高の武器 – すなわちお互いの関係から来るエンパワーメントを提供して下さいます。イエスが水から上がってはとが降りると、天が開け、イエスは御父の音声を聞き取れます。"これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である" これらの言葉は、御父が戦いをするためにその方の御子に手渡すことができたであろう最も鋭い剣です。御父の安心な言葉の中で、彼は邪悪な敵と戦い、私たちが決して壊すことのできない罪の足かせを私たちに代わって壊してくれるでしょう。

この叙述の意義は、ほとんどの人が想像するよりもはるかに深くなります。御神が人類の一員を受け入れるという事実は、私たちの残りの人たちに信じられないほどの希望を与えてくれます。イエス様を通して、御神は私たち一人一人に手を差し伸べ、私たちが御神の愛する子供であると私たちに告げます。私たちが十字架の贈り物を受け入れることを望むならば、まず、尊い言葉を聞かなければなりません。"これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である"。敵から贈り物を受け取るのは毒物を混ぜたのか、ひもを付着させているのか不思議に思わず受け取ることは不可能ですが、しかし、愛

情に満ちた家族の一員からの贈り物は、それが何であるかとして受け入れることができます- 純粹でシンプルな贈り物。十字架に近づける方法は、御神に対するわれわれの息子として、または娘として確固たる信念の橋を渡ること以外にはありません。他のすべての道は合法主義または罪に対する許可につながるはずです。

天からのそれらの言葉はサタンを激怒させたに違いないでしょう。彼がそこにいたが今は彼がそうではない何かを思い出させるもの – 息子！それは彼の虚無と無益さを思いさせてくれるものでした。しかしプライドは簡単には死なないため、サタンは荒野でイエスに彼は誘惑の攻勢をかける準備をします。

聖書の記録によると、イエス様は "四十日のあいだ荒野にいて、サタンの試みにあわれた。" ³⁶ と書かれています。私は、ほとんどの人は 40 日のどころか、10 分間の絶え間ない誘惑が圧倒するのを見つめるだろうと思います！ サタンはそれを正しく決着をつけるために 4 千年にもわたってテストの練習をしていました。あなたはイエス様が地獄のあらゆる武器の印にされたと確信できます。この葛藤の深さを誰が理解できるのでしょうか？全宇宙は、サタンが御神の御子に次々と打撃を与えるのに集団的に息を止めました。私たちはといえば、イエス様が私たちを自由にするためにイエス様によって行われた英雄的な立場に気づかず、ぐっすり眠っていたのです。ここ

³⁶ マルコの福音書 1:13

でイエス様が失敗したなら、私たちは皆わたしたちの、無の鎖によって押しつぶされていたでしょう。イエスは私たちの闇を貫くことができる私たちの唯一の希望でした。

私はこんな羽目になったし、私はただ立ち止まってその方に対して考えなければなりません。。私は何を言うことができるでしょうか？ 私たちの悲惨な状況での、私たちを助けるためにこの強力な王子の断固として不屈の努力に、私の心はただ感謝の喜びでいっぱいです。それはちょうど、彼らの子を救うために燃え盛る家の中を駆けつける父や母親のようなものです。その方は精神的にサタンに押しつぶされそうになったが、御子としての彼の位置を離しませんでした。この方は私の奥底で何かを大きな声で泣き叫ばせるのです。－ "私は何かの価値があるに違いない。彼らが本当に気にしない限り、誰もこれをしない！" この愛が、私の心を抵抗の出来ない方法で引き寄せるとあなたに伝えています。私はその方に抵抗しますが、御神に感謝いたします。あの方は私よりもっと決意が固いのです！

イエスさまが最もぜいじゃくな立場にあるとき－疲れて、空腹で、そして孤独な時、人類を 妥協に追い込むすべてのこと－サタンは、核心争点に来るのです。"あなたが神の子ならこの石がパンになるように命じなさい" ³⁷ そのテストは御神の御子についてのことを除いた以外に何があったのでしょうか？ イエス様はどれだけ長い間砂漠にいるつもり だったのか知らされていませんでした。記録

³⁷ マタイの福音書 4:3 新改譯

には、その方が40日ですべてが終わると言われたとも書かれていません。イエス様はまだそこにいて、その方を養うカラスも来たこともなく、マナが天から降ってきたことはありませんでした。多分、彼は天からの声について間違えられていたのでしょうか？ "あなたの父はあなたがこの状態にとどまることを 望まないでしょう。何とかしなさい。"とサタンがささやきます。

サタンは食欲という媒体を使って、御父のお言葉に対するイエスの信頼を破ろうと試していました。もっと早い四十日前に、御神がおしゃったのです。 "これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である " もしイエス様が石をパンに変えたら、彼は御神の言葉を疑い、その疑いは彼のアイデンティティを混乱させるのに十分であったでしょう。これを 超えて、イエス様はご自身のアイデンティティを証明するために何かを実行するように 求められているのです。イエス様に石をパンに変えてイエス様が誰であることを証明するように求めることは、パフォーマンスと成果によるアイデンティティであるサタン王国へと入る直接の扉でした。

私たちが達成したことによって私たちの価値を証明するこのわなのために、私たちの中でどれくらい多くの人が落ちていないのですか？ トップに着くために必要なものを持っていることを示すために駆り立てられ、睡眠とリラクゼーション、そして何よりも祈りの時間と聖書の勉強を無視し、オフィスに遅れて滞在し、重要な家族の時間を逃して、-ちょうどその昇進またはボーナスを得るためです。

なぜ私たちは自分自身をそんなに追い込むのでしょうか？多くの場合、私は私たちはこのような挑戦に反応していると信じています："もし皆さんが御神の息子または娘であれば、それを証明するためにはいくつかの偉大な行為をしてください。"

あなたはあなたが目が覚めて、黙想のための御神と一緒に時間をお過ごしたいと思うとき、あなたの頭の中はその日にしなければならないすべてのことでいっぱいになり始め、

我慢できなくなってしまうもう、あなたはただ 5 分間の祈りで妥協し、それからあなたはその日に入ってしまうのです。あなたにこんなことが起こりますか？なぜですか？もしあなたが一日の終わりに達し、あなたがあまり達成できていないことに気づいたとしても、あなたはそれでも満足して幸せであるか、それとも失望して少しは落ち込みますか？あなたは「やるべきこと」のリストから消せるようなものかもしれない時に、あなたが病気でベッドに横たわっているときの「時間を無駄にする」ことに動揺しますか？これらのことは全てが、例外がなく、私たちが行うことによって自分のアイデンティティと価値を証明するためにサタンの誘惑に、私たち全員が落ちるという事実を指しています。アダムとエバによって受け継がれた不安要因を私たちの奥深くに運ぶという事実のために、私たちは自分自身をカバーするために霊的および精神的なイチジクの葉を創出する必要がある容易なターゲットです。不安な人は常に自分たちのアイデンティティへの挑戦に反応する一方、安全な人は迷惑をかけることさえないでしょう。ロットワイラーを持っていた友人

と一緒に歩いていた頃を思い出します。私たちは歩いてもっと小さい犬を飼っている隣の家を通り過ぎました。その小さな犬は、ロットワイラーの注意を引くために、キャンキャン吠え続け、走り回ったりしていました。ロットワイラーははなはだしきは、その小さな犬を見るために、顔も振り向けませんでした。私は小さな犬が「ロットワイラーさん、私があなたを連れて行って、あなたのような大きな犬に勝てるということを飼い主に証明してみせる」と言っているように感じましたが、ロットワイラーは彼が誰なのか自信があり、挑戦に反応することはありませんでした。それは彼の価値に何を加えるでしょうか？

まさにこのような理由にて、イエス様が誘惑の荒野に入らなければならなかったのです。人間の家族は、その方がなさることによってそれを立証することを通してではなく、単純に御神がそれを言われたからその方が御神の子供であるとその方が信じていたことを立証できる人を必要としていました。世界は、私たちを罪に縛り付け、私たちを悪魔の奴隷にする、一見、無敵に見える無価値のゴリアテを敗北させるために、ダビデを必要としていました。実際、荒野でのキリストの誘惑のストーリーは、ダビデとゴリアテのストーリーと多くの類似点があります:

1. 霊的存在としてのサタンは、人間の本性に縛られたイエスに比べて多くの利点がありました。 サムエル記上 17:33

2. イエスは人類全体を代表しており、キリストの勝利は私たちのための自由を意味します。 サタンが悪のすべての勢力を代表したように、彼の勝利は私たちが永遠に闇の力の奴隷として残ることを意味しました。
サムエル記 上 17:9
3. イエスは、ゴリアテがイスラエルを 40 日間愚弄(ぐろう)させたように、イエスは荒野で 40 日間サタンの挑発と誘惑に直面していました。
サムエル記 上 17:16
4. サタン/ゴリアテは彼自身の力で来ましたが、イエス/ダビデは主の名で来られてその方のお御父を明らかにし、生ける御神の軍隊に逆らった者を暴露しました。
サムエル記 上 17:45
5. イエスが使った武器は世の中の標準では弱いように見えますが – イエスは御神のお言葉を信頼されていて、その方はそれらのお言葉を正確に使ってサタンの心を露出させました。

その類似点は注目に値します。私はゴリアテが私の御神、私の宗教、そして私を個人的に侮辱するのを聞く、丘の中腹に立っているイスラエルの兵士の一人として自分自身を置かずにはられません。"あ

あなたの神はどこにいますか？ 彼がそんなに強いとどうして私と戦わないのですか？ あなたは懦弱で役に立たず、あなたの神にとって恥ずかしい存在だろう？”このようなタイプの虐待を 40 日間も聞くということは本当に憂鬱になるでしょう。彼の大きさを見て！彼の鎧は、彼の怪物のような声で溪谷を横切って侮辱を加える時、太陽光線の中できらめきます。状況は見こみがなさそうで、そして奴隷制への諦念の沈む没感があります。今日は、何か違いますか？私たちは、私たちの無能力さと弱点に対してサタンの挑発があります。彼の誘惑はあまりにも強く、圧倒的に見え、そして私たちは何度も何度も彼らに落ち、そして奴隷制への諦念のその沈む感覚があります。完全には私たちの奴隷制は完敗できず、そしてその罪は常に私たちをより良いものにすると説く人々さえいます； 罪の奴隷制へのそのような悲しい降伏。ダビデの息子が私たちの陣営にいて、彼が私たちを悪魔の鎖から解放してくれました。誘惑の荒野での彼の勝利は、人間の家族全員の勝利なのです。あなたはまだあなたのゴリアテに向き合わなければならないと考えることを選択することができ、またはイエス様があなたの誘惑の頭を遮断するのを丘の中腹で畏敬心を持って見守ることもできます。イエス様があなたを自由にしてくれること希望するよりは、イエス様によるすでに勝利を収めていると信じるなら、まさに信仰の核心を見つけたことになるのです。

ダビデの息子が私を無価値さの力から解放してくれたことを、とても嬉しく思います。彼は私の反抗と自負心の心を取り除いてくださいました。彼は私の足を、御神の子供と確認してもらえる堅固な盤

石の上に置いてくれました。その方は個人的に私にとっての疑問に直面し、私たちの御父の言葉への信仰によってそれらを征服しました。御神の息子と娘たちよ、私と一緒に歌って大いに喜びなさい。イエス様はデュラセルの鎖を壊し、私たちを最愛の人たちとして受け入れられるようにしました。

第 11 章. 天国の門を開く

一筋の光が暗闇を切り抜け、夜明けが来たことを合図します。それはまた、課題を開始するための時間の合図なのです。脈拍は早くなり、旅の行程のために準備が進めると息は短くなります。彼らが夜明けの中に向かうとき、アブラハムの心は思い出で溢れています。彼は、初めてイサクを抱いていたことと、長い間、待たされた末に解放されたとてつもない喜びの感覚を覚えています。幼いイサクがパパのベッドに飛び込み、アダムとイブそしてノアと他の多くの人々の物語に注意深く耳を傾けながら寄り添っていた思い出と、彼は彼の前にある課題を熟考しているとき、御神が言ったように、彼の肩に巨大な鉛の重りのようにぶら下がっています。

"あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れて
モリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてさ
さげなさい。" 創世記 22:2

御神が語られ、アブラハムは今、指令に従うために彼のすべての力を召喚します。そこには説明もなく理由も与えられず、ただ命令だけです。アブラハムが御神と共に歩んできた何年にもわたって、彼は御神の命令に抵抗しないことを学びました。彼は御神が最もよく知っておられ、その方が彼が従うべき唯一の安全な道であることを信頼するようになったのです。しかしその道は大変で、考えられないほど険しいものでした！

アブラハムの心の中で激しく起こる闘争を、誰が理解できるでしょうか？ 喜んで、彼は自分の息子の代わりに、彼自身がささげ物になることを選ぶはずです。息子を彼の運命から救うために彼がしないことは何もありませんでした。アブラハムは、イサクからその自分の苦痛を隠すのに必死でありながら、激しく呼吸します。これはすぐに消える悪夢に違いありません。イサクが質問を投げた時に現実が襲ってきます。"父よ。火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか" 矢がアブラハムの心を突き刺してきました。彼はどのように答えますか？ 知恵を求める素早い祈りが御神に昇り、アブラハムは答えます。"子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう"³⁸

³⁸ 創世記 22:7-8

山の頂上で、アブラハムは苦痛にもイサクに御神の命令に対する理解心を明らかにします。イサクは若い人で、簡単に父親を圧倒して逃げ出すことができましたが、イサクは従順の訓育を学び、父親の知恵に彼自身の欲望を委ねていました。すべての天はアブラハムが彼の息子、彼の大切な息子をその最後の瞬間のために準備することを見守っています。人間の理性は今、信仰に反する一連の論争を解き放ちますが、アブラハムはサイクロンのような風の中で、背の高い杉のように立っているアブラハムは身を屈めますが、彼自身の要請に対する理解を遂行する彼の決意を譲歩しません。³⁹

すべてが準備され、アブラハムは彼の息子を見下ろします。痛みは彼の心臓を貫通して、彼の力は抜け始めるのですが、彼はしっかりと耐えています。ささげ物の祈をし、彼は最も大切な息子の生命を終わらせるナイフを振り下ろすことに彼の心を決めます。

その瞬間、声が聞こえます。 "アブラハムよ！わらべを手にかけてはならない。あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った "

この話をじっくり考えながら、私アブラハムの立場に置き、私の息子の立場をイサクの立場に置いて、考えざるにられません。彼が感じた重圧感を理解しようとするのですが、そのイメージはすぐに

³⁹ 本・アガベの第24章-情報を参照ください。

止まってしまいます。心の奥底にある何かが手を伸ばしてイメージが完成するのを押し止めようとします。感情的に私の心はそのようなシーンに対処できません。

十字架においてイエス様の恐怖と犠牲を把握するためには、私たちは御父と御子の関係の深さを垣間見る必要があります。彼らの王国の本質は彼らの間にモデリングされています;彼らの生命に対する接近の核心は、彼らがお互いに対して持っている愛から現われています。もし私たちがこの関係的な次元を十字架に加えないとしたら、それなら私たちは本当に要点を逃すことになるのです。

神そのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。
ヨハネによる福音書 3:16

貴重な関係の分離は、人が経験できる最も破壊的なことです。愛する人たちと離ればなれになるという考えは、すべての人間の心の奥底に潜んでいる恐怖です。私は、私が講演の仕事をするべき約束があり、私の家族とわずか一週間の間遠くに離れただけで、私の心は愛する人たちと一緒に家にいることを渴望するということを知りました。この世には自分と自分の家族との関係をトレードするようなものは何भीありません。その考えさえも気分が悪くなり、それでも聖書で明らかにされているように、私たちが御神の心を覗くと、私たちの御父なる御神とその方の御子は、進んでお互いの関係を断絶

させたことを知りました。まさに、あなたと私が天の門を歩いて、私たちの創造主とその方の御子と再会できるようにです。

誰かが応答する可能性があります、"そうだ、しかしイエス様は彼が再び立ち上がって御父と再会されることを知っていたのですから、それはそれほど悪くありません。" もしあなたがこれらの考えを楽しんでいたとしたら、それならばイエス様が絶叫した時、イエス様の気持ちがどうだったのか聞くことを提案します。"わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか?" 反抗的な世の中の罪悪感がイエス様に転がり、その方の御父の愛が私たちの罪に対する御神の許しに対する私たち人間の不信によって包み隠されているときイエス様は、永遠にその方の喜びであった愛情のある顔を見つけるために闇の中を探し出しましたが、しかし、罪は御父の顔を隠して、イエス様は御父から完全に分離されたと感じました。彼の希望は飲み込まれ、死だけがその方を待っていたすべてでした;彼は、彼が愛する人から永遠に切り離されることを感じていたので、

"わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか?" と叫んだのです。ちょっと考えてみてください;畏敬の念を起こさせるのです! 御神はその方の御子を見捨てられたのではなく、イエス様に対する私たちの罪の重さがイエス様にのしかかり、罪悪感のために罪人が感じることをその方に感じさせたのです。第9章では、私たちは泣き叫んだカインについて読みました。"わたしの罰は重くて負いきれません。" キリストは私たちのためにこれを十字架で

背負ってくださいました。私たちの罪は私たちに御神が私たちに逆らっていると感じさせ、実際に私たちの罪のせいで私たちを殺そうとしていると感じさせますが、御神は私たちに向いたイエスの愛を褒め、御神の御子は私たちが赦されると信じるかもしれないこの経験を通して許してくださいました。

これらすべてが疑問を投げかけています。御神はご自身と私たちの間の障壁を打ち破ることについてどれほど真剣でしょうか？アブラハムとイサクのお話で、私たちは御神とその御子の姿が描かれているのを見ます。私たちもアブラハムと一緒に御神がアブラハムに息子を殺してほしいと思ったと考えるのも自然でしょう。御神はアブラハムに彼の息子を生かすようにと言っていました。そして、アブラハムはこれが彼を殺すということを意味すると理解しましたが、これは罪に対する正義のわれわれ人間の認識を反映するからです。御神がアブラハムを止めたという事実は、これがその方の欲望ではなかったことを示していますが、その過程でアブラハムは、自分の大切な希望をすべて御神に委ねることをいとわない信仰を明らかにしました。御神が代物としてアブラハムに雄羊を提供したとき、私たちは御神が人間の正義に対する認識の代わりに提供してくださいましたことを見ます。御神は、私たちが私たち自分の罪を赦されていると信じるように、御子を御神から引き離すことを許されました。

自分たちの罪によって、今までにない最大の愛が断たれた、あの恐ろしい日の地震と闇の中で、私は父の叫びを聞きます。 "わが息子

よ、息子よ、どうして私があなたを諦められましょうか。どうしたらあなたを手放すことができるだろうか？" 地獄が正確にここにあります。御父も御子も、私たちに代わってその方たちの関係を引き裂けることで、地獄を経験したのです。その方たちは、私たちが支払わなければならなかったものと理解した代価を支払ってくださいました。地獄の本質は、御神の王国が表すものすなわち愛情のある親密な関係とは大いに正反対のもの以外に、何が他にできるのでしょうか？

それでは、このことは私たちにとって何を意味するのでしょうか？それは御神の御子が、私たちに代わって神聖な愛からの分離という恐怖を味わったことを意味します。ですので、私たちがそれを経験する必要がないということです。" 死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。"⁴⁰ もう今や、イエス様とその方の御父が私たちのためにしてくださったことのために、何にも私たちを御神の愛から分離させることが出来るものではありません。犠牲とささげ物は御神が私たちに要求されたものではありませんが、しかし私たちのために、私たちが赦されることができるとことを知るため御神は究極な対価を払われました。

御神の御子が地獄の惨憺たる重さを経験をしていたことにて、門を閉めたため、天国の門が私たちのために開かれています。イエ

⁴⁰コリント人への手紙第一 15:55

ス様が私たちのためになさったことを拒絶し、御神の愛から永久的に彼ら自身を断ち切る人々に起こることのように、私たちはそこに進入して号泣し歯ぎしりの経験をする必要はありません。

今、私たちに残っている挑戦は、私たちが無価値で、反抗的で、決心していると感じて いる状態で、私たちの心の中でこの旅をすることと、(私たちが行うことによってアイデンティティを刻む)、 私たちの 生命の源であり、愛が私たちを待っていて、私たちが御神の愛する子供だということを知ることができる場所へと戻ることです。たとえイエス様が私たちのために天の門を開いてくださったにもかかわらず、私たちはデュラセルの王国から神の王国へ、成果によるアイデンティティから御神の息子と娘としてのアイデンティティまで、言い換えれば、行いによる救いから信仰による救いに至るまで、私たちは御神の国への旅をしなければなりません。本書の残りの部分では、この旅の挑戦と特権に専念いたします。

第3部・
息子の関係に戻る旅路

第 12 章. デュラセルによって動力源を与えられた生命

期待感に満ちた空気が室内にまんえんしています。私は講堂にいる私の仲間の学生たちと一緒に座っておなじみの名前を聞きたい心が切実です。私はその年、勉強しながら一生懸命に働いて、自分にとってそれは本当にどうでもよかったと自分に言い聞かせているうちに、心の奥底で欲望が成長しました。

その学校は一年間の成果に対してさまざまな生徒たちに賞を配っていました。このイベントの間、私はとても興味深い、小さなマインドゲームをします。"あなたは今年、一生懸命勉強されたので、あなたはこの次の賞をいただけるでしょう… いや、他の誰かが勝ち取るでしょう… しかし、あなたにチャンスがあります。" その名が読まれるべき瞬間が やって来ると、私の心臓は期待感でより速く鼓動し始め、その時、私はその名を聞きます; それは私のもので

はなく、私の友人の一人です。これはそれが面白くなるところです。外側では私の友達と彼らの成功に拍手をしています。私の内側では非常に違うシナリオが進められています："あ、なんだか理由がわかるような気がします。彼は教師たちの一人と親戚関係があって、それが彼らが彼を選んだ理由なのです。結果が操作されたものでした！それは、何を知っているかではない、誰を知っているかだ。" その間ずっと、私は拍手をしほほ笑んでいて沈着な姿を見せようとしています。憂鬱な雲が集まり始め、次の数時間のあいた、私は落ち込んで少し腹が立っています。デュラセルによって動力源を与えられた生命のもう一日に過ぎません。

子供が自分の価値を評価され受け入れられることを望むなら、それらは対等の中で一番目でなければならないということを理解するのにそれほど長くはかかりません。比較の世界へようこそお越しく下さいました。あなたはあなたの子供のうち一人の誕生日のために何かを購入して、彼らの兄弟のために何も購入してないというわなに陥ったことがありますか？ 通常、すべての地獄が緩んで壊れるようで、あなたの剥奪された子供は、涙と悲鳴、そして時にはかんしゃくの中で、"それは公平ではない"という言葉をおウムのように口にします。そして、公園で"私を見守って" コンペティションがあります。あなたはすべり台の上にいるあなたの子供たちの一人を見守っていて、彼らが滑り落ちるときにほほ笑みます。あなたの後ろから"私を見守って" という声が聞こえてきて、あなたは振り向いてあなたの他の子がブランコの上で揺れている姿を見ます。あなたが他のことに注意を向けると、あなたの子供が気づき、"私を見守って"

と叫びます。すると、機関銃の発砲のように "私を見守って" の文字列全体に強要され、それぞれの "私を見守って" の音量と強度が高まります。それからあなたは昼食をとるために座って、あなたが甘やかしようとしているのと同じように、あなたはこの愛らしい小曲が聞こえてきます。" 彼は私よりもっと持っている、不公平で、私はもっと欲しい。" これがデュラセルによって動力源を与えられた生命の本質です。 年を重ねるにつれて、私たちはもう少し精製されるように努力しますが、比較や注目を求めることは人間の存在のハブを形成します。

ほとんどの学校の教育課程は、比較と注意を引くためにこのような必要性を理解しているように思えます。家庭環境の愛情から離れてあなたの仲間の友人グループと一緒に群れであることは、デュラセルの原則を埋め込むのに完璧な文化を提供します。これからの12年間は、いくつかの分野のうちの一つまたは多数の分野で比較的優れて、優位を占めてこそ明るく幸せな未来を確保するための競争になるはずです。大部分の文化圏では、より知的な人を好むようです。比較知能はあなたを遠くへと連れて行ってくれるような資産です。知識を保持し逆行する能力を持っている子供たちが、彼らの手に才能がある傾向の子供たちよりも高く賞を授与される傾向があるのは、なぜか疑問に思ったことはありませんか？⁴¹ あなたは庭園の手入れ

⁴¹ 西洋文化は実用的というより学術的な傾向を重視するギリシャ文化に多くの基盤を置いています。ヨハネの黙示録13章で全世界を導くと叙述された獣が、基本的にギリシャ王国を表すヒョウであったことは偶然ではありません。

をすること、あるいは車のエンジンの直す方法を本当に知っていたために、大学に入学することを想像することができるでしょうか？

そういった技術を持った人たちのための場所もありますが、運勢なことが最も上層部に学者を配置する傾向があります。

毎年、子供たちは成績表を家に持ち帰り、彼らは成績表をもとに彼ら自身に対する認識を発展させます。私は、人が彼らの手に先天的な才能を持っていたとしても、しかし、学問的に孤軍奮闘する状況の数を経験しました。その結果、あなたはそれらがしばしばこのようなコメントで非常に自己制限的であることを発見します。" あれは私を超えている" または "絶対にそのようにはできない" または "私はそれにはあまりにも愚かです。"

しかし、恐れることはなく成功する方法は他にもあります。どの学校のシステムにもスポーツプログラムがあり、子供たちは運動能力の比較ガイドを開発できるのです。子供たちは何千時間もかけて運動能力を身につけ、いつの日か彼らが熱望する力と栄光を彼らにもたらしことを願っているでしょう。スポーツはただのゲームだということは私たち誰もが知っていますよね？ ワールドカップの期間中にヨーロッパの街を暴れ回る全てのイギリスのサッカーファンにそれを言ってやってください。愛するクリケットチームがワールドカップで負けているのを見守っていたその男性はどうでしょうか？ その結果、彼は心臓発作を起こして、試合の終わり前に亡くなりました。そして、なぜさまざまなスポーツマンが2本の棒の間にそれを

得ようとして皮の球を蹴り回して入れようとするために年間数百万ドルを支払うことができるのでしょうか？ スポーツは、達成によって価値を獲得し、そして人が望むことができるあらゆる注目を得る最もシンプルな手段のうちの一つを提供するので、深刻なビジネスなのです。これは、デュラセルに餌を供給して、私たちが成果よりもむしろ関係によって価値を認められることができるという信念を殺すために最高のシステムの一つです。

スポーツで最も興味深い点の一つは、最高のレベルでのパフォーマンスを行うことができて、2 位になったら誰もあなたの名前を覚えていないでしょう。敗北による感情的なトラウマは破壊的な可能性があります。私は、あるサッカー選手が PK 戦でゴールを決められず、彼のチームが貴重なトロフィーを失ってしまったため、子供のようにすすり泣き叫びながら地面にうずくまっているのを見守ったことを覚えています。私は、彼のコーチがフィールドの外で彼に力を貸すのを見ていながら、その瞬間彼がどれだけ多くの価値が彼自身にあったことを感じられたのか疑問に思ったことを覚えています。しかし、もちろんそれは単なるゲームに過ぎません。そうです、しかしそれは価値と受容のための生と死をかけた争奪でのゲームなのです。

私たちは、私たちに好意を示し、私たちが願望する成功と幸福を与えることを希望している他の多くの神々をリストアップすることができます。肉体的な美しさという領域があります。あなたの頬骨の構造や胸の大きさの基づいて名声を勝ち取ることも失うことも

できる厳しい世の中です。あなたは、来る夜も来る夜もどのくらいの若い女性が自分たちの目標に達していかったと感じ泣いて寝入りしているのが誰であるのかを知っていますか？私たちは近ごろ、拒食症と呼ばれる問題が急速に増加していますが、それは主に女性たち自らが自身を飢えさせるように追い立てるので、彼女らは不可能なほど小さな姿へと下がるができるようにしています。

富の創出の領域、仕事の地位、さらには郊外の地位の領域についてはどうですか？私はホワイトカラー企業で数年間も勤めたことがあります、上下関係を観察するのは、非常に興味深いことです。あなたは彼らのオフィス家具の種類や品質によって、その人のポジションがわかります。トップボスは彼のオフィスのために別室を持っており、下の通りが丸見えの窓を兼ね備えています。彼は肘掛けもつきの革張りの高い背もたれの椅子を持っています。彼は、最新のコンピューターがその上に置いてある着色を焼き付けさせた大きな木製の机を持っています。次の職位の人でも彼自身のオフィスを持っていますが、彼の窓越しの眺めはあまり良くないですし、彼の椅子はそれほど高級ではなく、彼のコンピューターはスピードもそれほど速くありません。次の職位の人でも自分のオフィスが仕切られていて、椅子にひじ掛けがありません。ああ、それから、ハンズフリーの電話もないし、彼は窓から外も見ることができません。あなたがそれを考えてみると笑わせることですが、企業の世界では非常に真摯なことなのです。オフィス家具は、あなたの職場の同僚たちとの効果的な比較するための重要な要素です。

比較の機会のリストはデュラセルの世界では終わりのないものですが、通常彼らはいくつかの基本的なカテゴリーのうち一つに属する傾向があります。

1. 教育水準
2. 運動能力
3. 音楽 / 芸術的能力
4. 職務上の地位 / 所得水準
5. 身体的外見
6. 所有物/資産
7. 国籍

これらは世が崇拜し、それらを希望する彼らを支持する神々です。彼らは厳格な仕事の マスターであり、あなたがもし彼らに支持されることを望むなら通常は、完全な屈服を 要求します。 彼らは通常家族や友人に犠牲を要求し、そしてあなたが運が良ければ、 あなたが無の状態に消えていく前にあなたの栄光の瞬間を持っているかもしれません。 私たち全員がデュラセルの力を通じて、これらの神々の奴隷となり、天と地を創造された私たちの御神が私たちを救おうとするのはまさにこのらの神々からです。

第 13 章. 天国への階段

どんどん日は短くなり涼しくなってきた; 冬が近づいていました。その幸せな小さな谷の上にすぐにも降りてくる厳しい寒さを通して暖炉に火をつけるために、供給するまきの山を積み上げなければならない時期でした。その家の男は忙しく薪を切っているとき、彼の目の片隅に小さな一足の靴が入ってきました。彼が顔を見上げると、そこには幼い少年が彼の一挙手一投足を見守っていました。"私のパパはそれよりも早く薪を切り刻むことができます。" "そうですか?" 男はその幼い子の大胆さにかなりも面白がって答えた。" 僕のパパは確実にできます! 私のパパは何でもできます。彼は最高だよ" まあ、そのようなパパを持っているなんて君の特権ですね."

それが私の子供時代の素朴さでした。これらは、ママとパパが間違っていることは何もできず、想像できる最も素晴らしい人々だった

時代の日でした。ある点では、その単純な状態のままであればよかったのですがそうではありませんでした。学校でしばらく短い時間を過ごした後、私は絶え間ない比較環境に適応し始め、私は自分の教育経験を共有した子供たちらの小さなコミュニティの中で、自分の居場所を探すために努力しました。小学生時代の比較のレベルはそれほど激しくなかったので、私の初期の学校経験の多くは懐かしい思い出を思い起こさせてくれます。多くの工作授業とゲームおよび活動があり、一般的には楽しいものでした。しかし、未来が前に持たされ進められて私はデュラセル王国のほろ苦い味を経験するときがあるでしょう。

私が7歳のとき、私の家族は新しい所へと引越をして、私はたちまち新しい子供たちのグループの中に入って行く私の道を感じていたのです。私はすばやく友達ができましたが、何人かの厄介な男の子にも遭遇しました。私は、子供の頃はかなりしっかりとした体格をしていて、やせっぽちの子供たちのカップルは、私が彼らよりもわずかに良いパッド入りを着ていたという事実から私が彼らよりも何かを得るだろうと決めました。

"ファットソ"、"ファットアルバート"そして"スロブ"は私が覚えている名前の中の一部です。それは私たちの多くの人が子供の頃に遭遇した残酷な経験でした。こんな事は来る日も来る日も起きました。魂の敵は、私の価値感覚を破壊しようとしてこの少年たちを利用していたのです。ある日の朝学校へ行く途中で、私は十分我慢するだけ我慢したと決めました。"ママ、私は車から降りない。学校には

行かなよ。"「もちろん、あなたは私の息子だわ " "いいえ私は違
よ !" 私たちが車を走らせるとき、私は獲物を襲うためにハゲタカ
のように見えて威嚇するような一組を見ました。ママはドアを開
けて私を押し出そうとしました。その後数分間は相当激しかったです。
私は蹴ったり、抗議して、怒鳴りながら、そして私の椅子にしがみ
つきました。これはただ典型的な、ひどい振る舞いをする少年の場
合に限ったことだったのでしょうか？たぶんそうかもしれませんが、
人として私のアイデンティティ意識がペシャンコになるとき、私は
自分自身を救うためにいくつかの必死の対策を講じるつもりでいま
した。次に何が起こったかは実のところは覚えていませんが、いじ
めが止まったことは覚えています。ここに、前途に横たわる物の本
当の味がありました。

子供たちに未完成のままで現れる残酷さは、サタンの比較王国の原
則が動作中で抑制されない結果なのです。私たちはよく子供たちが
見せる大胆な利己主義や恩知らずな行動にぼう然としていることが
あります。私たちは自然にこれらの特性から抜け出せますか？いい
え。私たちが学んだようにダビデの息子の助けがないと誰もこの王
国を去ることはできません。私たちが年をとるにつれて、私たちは
単により悪賢くて、精製されたものになっていくのです。

高等中学校に半ばに達した頃には、私は十分にプログラムされてい
ました。私は教育の神、スポーツの神、そして身体的な外貌の神を
崇拝することを学んでいました。私はお金の神を崇拝したかったが、

私には仕事がありませんでした。私の周りのすべては、私が第一になるためには奮闘しなければならないと私に言っていて、成就するために奮闘しなければなりません。私は勝者だけが受け入れられ、敗者は何の価値もないことを学びました。なんども、学校でうまくやるという私のインセンティブは、単に私が学んでいることの中身を楽しむよりは、1位を達成することができる可能性にもっと動機づけられました。私はこうした信念を補強することができる映画をテレビで、見ていたでしょう。先頭の男性主演俳優たちはある若い淑女の心を溶かすような、ある偉大な業績を達成しなければならないということで演技されて描かれていました。これは、私に關係は皆さんが達成したものであり、その若い女性は友達というよりも賞品のような存在だということを教えてくれました。あなたがそのようにいえるというわけではなく、これらすべてが潜在意識なレベルで起こっていることでした。

この時期は夢を見るための時間でした。私はしばしばベッドの上に横たわって、クリケット試合でオーストラリアの勝利のゴールを打つか、彼らが決勝ゴールをいれるか、または苦境に立たされたある少女を救うために命と四肢をかけることなどをよく夢見ていたのでした。これらの夢は、私の価値システムの構造を形成しました。

もっとたくさんの夢を見れば見るほど、私はそれらの目標を達成するためにもっと固い決心をするようになりました。大変な部分は、こうした目標を真空状態では達成できなかったことです。私は、他

の人々に勝たなければなりませんでした。私は私の友達らが　　ほしかったですが、私の夢を先に望みました。私は私の夢が脅かされていなければ礼儀　正しく行動することができましたが、私の夢が挑戦されていると感知した時には、それは戦争でした!

私は自分の目標を達成するために一生懸命に努力しました。私はスポーツと教育では優れていました; うーん、3つのうち2つは悪くなかったですね。それから私は、また別の段階に入り始めました。いったん、トップに登り詰めると、私はそこに留まろうと努力しなければなりませんでした。そこには私の肩越しに私の貴重な位置を狙うものが、絶えず　　のぞき監視されていました。それからそこには評判の期待があります。いったん、　　私が評判を確立したあとに、もし私がひどくやったらどうなる? それではひどいことになると思い、だから私は滑らないようにさらなる覚悟が固くなりました。

この戦いは、私がすべての目標を達成することはほぼ不可能だろうとこのことを認識し始めるまで、しばらくの間激怒しました。これは怒りの爆発につながりました! 私は裏切られたに違いないと思います。私は主人たちによく仕えていましたが、そして、現在、彼らは私をあざけっていました。私は決して私に持続的な価値感覚を与えることの決して出来なかったシステムで訓練をされており、私は怒りを覚えていました。

多くの人々は、若者がしばしば見せる変動性や破壊性、そしてなぜ彼らの多くが自殺をしたり、または暴飲と麻薬に依存する理由を見分けるために孤軍奮闘しています。私は、たびたび彼らが教えられてきた方法を通しては決して彼らの夢を成すことが出来ないだろうということを悟るからだと思っています。彼らは、他の人の目には、決して偉大ではないでしょうし、なので彼らは自己破壊するのです。

私はある日バスケットボールの試合に出場したことを思い出しました。試合は接戦していて、プレッシャーが加わっていました。私がマークしていた選手が突然フープに向かってドライブし、彼がボールを持ち上げた時、私は手を伸ばして彼の手の外にそれをきれいに弾き飛ばし離しました。信じられないことに、私は審判の笛と "ファウル！" という言葉が聞こえてきました。私は、私が彼をタッチしていないことを知っていましたが、突然、この怒りが私の内側で沸き起こりました。私に世界を約束したこの惨めなシステムが私に何も与えなかったことへの怒り。私は審判に飛びかかり、彼の顔から 2 インチ離れた所に立って、ちょうどわいせつなデシベルのレベルまで音量を上げただけでした。私の中で何かがパチンと折れ、我慢できなくなっていました。私はすぐにコートから除去され、競技から禁止されました。私が歩いて立ち去るとき、御神が私に話しかけたと信じています。私は自分に尋ね、"君、どうしたんだ。君は本当にそれをあそこの外で失ってしまったよ；君はコントロールを失っていたのよ！" 私は自分自身を本当に見て、自分が向かっている方向性について疑問を抱いたのは初めてでした。御神は私をより

良い物を捜すために私を引き寄せていらっしやいました。私はもっと良い方法が必要だと感じ始めました。

私の魂の敵もまた、これを認識し、私自分自身を証明するためにさらに深く追い込もうと努力しました。まるでタバコを辞める時期が来たことを感じ取って、2 倍のタバコを吸い始める喫煙者のように。夢が薄れるにつれて撤退し始め、私はかなり不機嫌になりました。ある日、母が私の部屋に入ってきて、その悲しい状態について不平を言い始めました。ほとんどの 10 代の少年の部屋がそうであるように、それは最適ではなかったとしましょう。私は彼女が私の空間に入ってきて、私の周りに命令していたことに激怒したのです。私は私の息を殺して小声でつぶやき、一連の選択の言葉を飛ばして、彼女に私を放っておく ように言いました。

御神が人間に手を伸ばすことができるさまざまな違う方法を見るのは興味深いことです。私の友達の多くが、とても卑下する言葉で彼らの母親を言及しました。何とかして、私の父は私に両親に対してある程度の尊敬の意識を持つようにと教えてもらったし、私は私の友達の中で何人かがそうしたように私は母について決して話さないことを誓いました。私が母についてそれらの言葉を発したとき、それは私が持っていた最後の尊厳の断片が剥ぎ取られたような気がしました。よくそんなことが言えたことに衝撃を受け、うつ病が深まりました。私はもはや気にかけないことの要点に触れていて、それはあるための非常に危険な場所でした。私は、自分が岐路に立た

されたというこの真の感覚を受けました。　その広い道は、大きく開けた顎でワインと女性たちと歌に満ちて私を手招きしました。反対側には、聖書によって提示された狭い道がありました。私は両親がら教えて貰っていた宗教に従うべきか、でなければまるで赤々と燃え上がる彗星のように広い道に入るべきか。私は、もはやクリスチャンであるふりをするに何の意味もないことを見ることができました。私がクリスチャンの環境で育てられたとしても私はクリスチャンではなくて、そして、これまで本気に決してクリスチャンではなかったことが今では、実際に明白になったのです。それはイエス・キリストか、悪魔のどちらかでした。ありがたいことに、私は聖書の本当のイエスを見つけようと試してみることを選びました。

私は長年、家にあった本を読んでみる決心をしました。それはキリストへの道と呼ばれる本でした。いま、そのタイトルは私の必要に完璧なもののようにでした。私はその方を見つけるための飢えと必死な気持ちで本を読み始めました。私はその天国への階段を見つけなければならなかったのですが、なぜならば、私はサタンの王国を扱うことが出来なくなったからです。

この本の冒頭で、著者はイエスさまは人類が御神について抱いていたうそを払拭するために来られて、御神が私たちが本当に愛しておられるということに関して、その方が私たちにどのように示してくださったのかを説明しました。乾いた大地に降る夏の雨のような、

その文章を飲みました。著者は私にゲツセマネの園でのイエスに関して考え、十字架のイエスに従えと私を招待しました。

これらを光景を想像しているうちに、突然、私が実際に立ってその方を見ているような気がしてきました。十字架上にかけられた姿はとても現実のように見え、私はあの方がそこにぶら下がっているという強い印象を受けました。なぜなら、その方は私を愛していたので、サタンの王国から逃れたいという私の切実な必要性を理解したからです。私はその方を私の親友として信頼し、その方が私を天の王国へと導いてくださるのだらうという考えを抱きました。私がその方をそこで見たとき、その方が私を喜んで救ってくれたというこの計り知れない感謝の気持ちになり、私が何年間も持ち歩いていた罪悪感、不安、落ち込み、恐怖の重さがその瞬間、私の背中から転がっていくのを感じました。今までには感じたことのない平安が私の心に入り込み、それから私は泣いて喜びを求めて泣き続けました。ダビデの子は私の暗闇を突破し、昼の日の光でそれを突き刺しました。

第 14 章. 同じ神々、異なる名前

部屋は活動、笑い、音楽、若々しい興奮で生きていました。部屋の前のほうに向かって、2つの大きなスピーカーから、最新のロックバンドの激しくビートを刻む音楽が流れていました。私は私の友人のグループと一緒に祝いするためにパーティーを企画しました-まあ、少なくとも私はしようとしました。私は部屋の片隅に行きそこに座ったら、そこではあるアニメの10代の若者の最新映画のワンシーンを描写していました。私は落ちついて、雰囲気に入ろうとしましたが、しかし、何かがただ正しくありませんでした。私は起き上がって外裏のテラスに行き、彼らが夢見ている女性たちを捕らえるための彼らの最近の手柄について討論していた数人の若い'ロメオ'たちと合流しました。いや、私もそれをただ楽しんだだけではなかったのです。ちょっと少年、私に何か問題でもあるのか？ その音楽が私の神経を刺激し始めていて、部屋の向こう側を

渡りちらっと見たところで、再生中のビデオから私が非常に侮辱的と感じていたシーンが見えたのでした。考えは貨物列車のように私を襲ってきたし、私はこんなことが嫌いでした！

私の心は可能なシナリオによって加速しました。いままでは、これが私の楽しいものの 定義でしたが、今はもうそれが欲しくなかったのです。 何かが私の心を握っていて 楽しむことが不可能になりました。 深淵どこかで、私の楽しい人生は終わってしまい、私はもうこれ以上自分自身を楽しむことはできないだろうという恐ろしい考えが浮び 上がりました。私は家の前に飛び出して家の前の芝生の上で虚空でこぶしを振り上げ ながら大声で叫びました。あなたが私の人生を台無しにしました!"

それは、イエスさまとの私の 'ダマスコの道での経験' があつた数週間後のことでした。私の人生は完全にひっくり返りました。私は生きていて、これほど多くの平和を感じたことがなかったので、聖書はちょうど生き生きとし始めました。私はそれを全てを飲んでいて、これまでに知らなかった自由の経験をしていました。イエス様が私の人生にいらっしゃった時、その変化は即効的でした。突然、私は、自分の言葉遣いが一部不適切である事と、それらは私の冗談の一部は、かなり低俗で、私の生き方の、はっきりした一面は、私が いま向かっている新しい方向と両立し得ないという事を私は知り意識するようになりました。私は新しい王国への旅に出ていました。それはまったく違う外国に行って、言葉や慣習を一から学ぶようなことと同じでした。私はその王国の主を愛していたので学びたかった

のですが、しかし私は違う王国で教育を受けていたので、それは調整するのに少し時間がかかりそうなのです。

そのパーティーがあった夜になって初めて、私はどれほど急進的な転換が起こっているかを悟りました。イエスがその方の愛によって私の心を捕らえてから、その方が呼ばれたとき、私はその方を抵抗できませんでした。それで、私が大丈夫だと思っていたことをしていたパーティーの夜、私はその方が私をそのようなタイプの生活から遠くへと呼びかけていたというそれを感じることができました。私は他のことは何も知らなかったもので、それを取り換えるのはそれほどよくないだろうという恐怖が生じました。私たちはそのようにそれが正しいということを知っていた時でも、未知のものを恐れるのは非常に簡単なことです。ありがたいことにも、私はイエス様が私の面倒を見てくれると信頼することを選びましたし、私の感情よりもその方を信頼することがもっとよかったのでした。

私がイエス様を私の救い主として受け入れた時、私は何週間もただ浮かんでいました。私は今に至るまで私と一緒に残っていらしゃる主に対して特別な密接さを感じ取りました。イエス様は私のために天の門を開いてくださいましたが、今その方は私のデュラセルの種を取り除くように手伝ってくださるでしょう。その方は私が私のパフォーマンスと成果を私の価値システムの中心に作った私の人生哲学を根こそぎを除くことを助け始めてくれました。それはアダムの子どもの子どもたちが、必ずとらなければならない旅路です。私たちがそれを成し遂げる唯一の方法は、十字架の光に私たちの目を固定

しておき、その新しい王国の原則に向かって、謙虚に私たちの救い主の歩みに沿って従っていくことです。

私は友達と一緒に祈り会に参席し始めました。私たちが一緒にひざまずいたその最初の夜、

私たちの周りから御神の甘い霊が感じられましたが、私に嫌がらせをしていました私の 昔の生活から来た別の霊がありました。円の周りで私たちが祈ったとき、私にある考えが襲いました: "この人たちのようには祈れないよ彼らが祈るようには、彼らはあんなに雄弁なもの" 私の心はこの考えに閉じ込められているようで、祈りの輪が私の近くに移動するにつれて、私の心臓はより速く鼓動し始めました。まもなく私はスポットライトを浴びる浴びることですし、誰もが私の話を聞いているようになるでしょう。しかし、ちょっと待ってください; これはイエス様についての祈り会でした、私ではなく！

ここにデュラセルの呪いがあります。イエス様に私の心を与えて、イエス様を探し求めてついて行こうとしたにもかかわらず、私の昔の生活の原理は相変らず準備ができていて、自分自身をすべての中心にするために私を引きずり戻すことをいとわなく、祈りの中での御神との関係とは対照的に祈りの中での私のパフォーマンスを争点にするためです。

私が最初に聖書を学び始めたとき、クリスチャンの環境で育ったにもかかわらず、聖書の用語で私は幼稚園を卒業していないことに気

づいたので、私はしばしば不十分だと感じました。私は教えられたことを聞くのが大好きでしたが、私の心の奥で何かが私をせがみ続け " どうして彼らはあの節を簡単に調べることができるのだろう。そんなことはできませんでした"と言いました。私は適書と節を見つけようといじくりまわしながら模索していて、そして私はただ私が最後ではないことを祈ったのでみんなが私を待っているでしょう。なんてきまりが悪いでしょう！自分自身を他の人々と比較しながら受けた、その数年間の訓練が私の新しいクリスチャンの旅程で表面化し始めました。 キリストの霊が私の言葉遣いやライフスタイルについて私に有罪判決を下すのは相当に簡単でしたが、デュラセルが運営するその触手がどれほど深く根ざしているかを私に気が付くには時間がかかることでしょう。

私は旅を続けていくうちに聖書に対する深い愛が芽生えました。 私のためにその方の命を与えてくださった私の英雄について学べる最高の方法の一つでした。 私はただイエス様について勉強することが大好きだったし、それは大きな祝福だったが、私の昔の人生が潜んでいて、私をわなにかけるために準備ができていました。私は周りの人々が聖書の中身について私よりもはるかに少ない知識を持っていることに気づき始めました。私の成長する聖書の知識はもっと私に話す自信を与えてもらい、すぐに私は小さなグループの聖書の勉強会を引き受けることと、その後はもっと大人数のグループと勉強をしました。改めて言いますが、これは私と私の周りのその人たちにとってそのような祝福でしたが、私はゆっくりと、着実に関係に

よる価値よりは、成果による価値のプラットフォームの方に再び進んでいました。それはゆっくりとそして感知できずに起こりますが、それは起きます。振り返ってみると、私は私たちの多く人々にとって、私たちは同じ神々を持っていますが、違う名前を持っているということを見ます。

下の表を見ると、聖書を信じながらもしかし世の中のように生きることがいかに易しいかが分かります。私は、野生な生活方式を送ることを意味するのではなく、あなたのすることによって価値を得ることを意味します。

世の中において。	その教会において
教育	聖書の知識
運動能力	大衆演説能力
芸術的能力	音楽ミニストリー
職務の状態	教会の事務室
所有物	霊的な贈り物
物理的な外観	教会式のパレード
国籍	保守/自由主義的な

私たちの多くの人々にとって、私たちがイエス様とともに歩む道がデュラセルの陰険な力によって掌握されました。今日私が教会を見回してみると、私たちが世の中から逃げようと求めていた神々が、教会の中で私たちを見つけたことがわかります。彼ら自身は光の衣服を身に包み、私たちは彼らを良い友達として受け入れていました。

避けられない結果としては、教会内では怒りと苦さ、そして戦いがあります。教会で敬虔に見えるのはとても簡単ですが、教会の反対側に座っている人はどうでしょうか？ あなたが彼らの背後で彼らについて何か言い、それらが彼らの耳に入ったので、誰があなたと話をしようと思いますか？ 自分の奏法が標準以下だと彼女から言われていたために別の教会に行ったピアニストは どうでしょうか？ 教会の中をあちこちと歩き回りながら、彼らの正統性の教理に対する定義に同意しない人々を捜し出し、彼らが教会から彼らを除名できるかもしれない教理の警察はどうでしょうか？ 礼拝委員会を強制的に乗っ取り、彼らの新しい礼拝スタイルを すべての人に強要し、それを好まない人々にはあまりにも悪いことをする、そのような '進歩主義者' たちはどうでしょうか？ リストは無限であり、私たちの魂の大敵は、彼が この曲調に私たちを踊り続けることができる限り、それじゃあ私たちは本質的にまだ彼の王国の対象であることを知っているのです。

私たちがまだサタン王国の原則によってダメになっているという最も強力な証拠は、教会内での高いレベルの分裂とクリスチャンの愛の不足なのです。もし、私たちが私たちの関係を御神がその方の方式通りに見るとすれば、教会にはもっと多くの愛があるでしょうし、私たちがお互いにどのように接するかについても、もっと気を使うでしょう。

私たちの個人的な経験の中において、この世から教会へと神々のこのような微妙な移り変わりが、教会の共同体の経験においても起こ

ったことは非常に興味深いことです。4 世紀に、皇帝コンスタンティヌスがキリスト教を' 受け入れた' とき、キリスト教の教会で起こった変化の全範囲がありました。特に興味深い一つのポイントは、パンテオンにあった異教の神々の彫刻像の多くがキリスト教の教会に移管され、それらの名前が変わられて、それはモーセ、ダビデ、ペテロなどの聖書の中の登場人物のように名前になったということです。同じ神々、違う名前です！ それをどのように着飾るかは重要ではありませんし、それはまだ異教なので、そして今日私たちは何を言うことができますか？ 共同体の教会が使徒の真理から背教をしたため攻撃するのは一つのことです。私たち自身の人生の中で同じ原則が働いていることを見るのはまた別のことです。兄弟の目の中のちりを探して除去しようとする前に、私たち自身の目にある丸太を確実に対処するようにしましょう。

キリストの最も熱心に従った追従者である、－彼の弟子たちの旅を研究することは興味深いことです。権力と位置のこの問題はしばしば彼らの頭を持ち上げていました。聖書の少数の節に注目してみましよう。

そのとき、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「
いたい、天国ではだれがいちばん偉いのですか」。 マ
タイの福音書 18:1

そこで弟子たちがその質問をした理由はただ一つ－つまり私利私欲です。弟子たちは イエス様をメシア、つまりキリストであると

信じました。彼らはその方への彼らの信念に興奮し、情熱を持っていました。；ある人者は主のために死ぬことさえ喜んでしまいましたが、私が祈りの準備をしていたときと同じく、そして私の心は私の関係から私の祈りのパフォーマンスに移り変わっていったように、その弟子たちはメシアと彼らの関係からその方の新しい王国での彼らの位置に移っていきました。

さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。(36) イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。(37)すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。マルコの福音書 10:35-37

位置と地位の神は、ヤコブとヨハネが学んでいる新しい王国の原則をあまりにも追い越してしまったので、彼らはイエスに、その方の王国でその方の左と右に彼らが座ることができるかを尋ねました。ありがたくもイエス様は、古い王国の原則を手放さずに、彼らの継続的な失敗に決して飽きることはありませんでした。その方は、サタン王国の原則が本当にどれほど深く根付いているのかを見て分かるには、私たちに時間がかかるということを理解していました。私たちが直面している問題は、古い原則が次の事態を引き継ぐのを許可するときに、次のようなことが起こるということです。

十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。 マルコの福音書 10:41

私たちが古い王国の原則がわれらを支配することを許すとき、常に争い結果が起きてしまいます。ヤコブとヨハネがしたことが、他の弟子たちを怒らせました。なぜでしょうか？それは、彼らが "私たちはあなた方よりも優れている" というメッセージを送っていたからです。彼らはそれをするつもりはなかったかもしれないが、それはほぼ常に結果であります。イエス様はこの機会を借りて御神の王国が自分たちが育った所とどのように違うのかについて彼らの理解を拡張させようと試してみました。彼らは違った考え方を学ばなければならぬでしょう。

そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。(43) しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、(44) あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。(45) 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多く

の人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

マルコの福音書 10:42-45

これらの言葉が私たちの耳もとで永遠に響こえるようにしてください! もし皆さんが御神の王国で偉大になることを願うならば、他の人々を操ったり統制するよりも彼らに仕えることを楽しむ方法を学んでください。イエス様は、異教徒(異邦人)たちがその他の人々よりもそれを上手に振る舞いながら、彼らの権威を行使して、誰がボスなのかを示すことを楽しんでいると私たちに語っています。不思議なことに、このような同一の精神がしばしば教会を支配して、さまざまな構成員が教会に向けて彼らの意志と権威を押し付けることがあります。十字架から 2 千年が経過したにもかかわらず、私たちの多くは、依然として基本を理解していません。

なぜ、私たちの魂の敵は私たち以前の考え方に引きずり戻すようにすることが、そんなに簡単に見つけるのでしょうか? 私たちが先に明示したように、サタンが私たち自身を証明するように誘惑することが簡単であるのは、私たちの深い不安定な感覚です。私たちがどのようにして私たちの価値を得たのかを覚えていない限り、私たちは私たちが重要であることを証明するために石をパンに変えようとする試みに抵抗することは不可能だということを知ることになるでしょう。

私たちに粘り強くしがみつくこのデュラセルの原則について探し出した非常に憂慮すべきことがあります。 イエス様はこの世が見た中で最高の先生でした。 その方は 3 年以上の歳月を弟子たちと一緒に過ごし、天の御国について最大限に教え、そして、このすべてのことの後も、その方の十字架にかけられた当日の夜にも、まだ弟子たちは昔の生活の原則によって統制されていたことがわかります。

食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。(21) しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。(22) 人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわざである」。(23) 弟子たちは、自分たちのうちだれが、そんな事をしようとしているのだろうと、互に論じはじめた。(24) それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起った。 ルカの福音書 22:20-24

宇宙は見たことのない最も偉大な愛の試演のまさに前夜に、イエス様に最も近い人々、 誰よりもその方の王国をもっと知っていたイエス様に最も近い人々が、彼らの中でどれが最も偉大なのかについて論争をしていました。 その時点でイエス様が経験した悲しみはとてつもなく大変だったでしょう！ イエス様の追従者であると主張する私たちの それらが、その弟子と同じ過ちを繰り返す熱

情なイエスの追従者たち彼らのように、誰が最も偉大であるかについてまだ私たち自身の間で揺れ動いているのです。

この世のデュラセルの原則によって統制されるよりもっと悪いのはただ一つだけで;それは教会で彼らによって統制されているということです。 御神は私たちにその方の王国の 完全な喜びを経験できるように、このような自己追求な原則から解放されるように私たちを助けてくださいますように！

第 15 章. どのように読みますか?

今日は特別な日になりそうで あなたは先に待ち受けている潜在的な見通しに期待と興奮でいっぱいです。大規模製造製造会社の責任者は、あなたが手をがけた特殊なデザインに 関心を持っていて、それを製造して全世界に輸出することを真剣に考えています。あなたは素敵な小さな地元のレストランで昼食のために会うことにしました。これまで会った ことのないあなたは、あなたの夢を現実に変えてくれるこの人を特定しようと緊張して 周囲を見回しています。ついに彼は到着し、あなたは彼と力強く握手をした後、あなた 2 人ともレストランの中に移動してあなたたちの場所を見つけます。親しくなるために あなたの食事のパートナーはあなたにあなたの家族とあなたがどこに住んでいるのか、そしてお子さんたちが学校でどのようにやっているのか様子をほんの少しと聞きます。 あなたのすぐ後ろにいる彼が彼のスープをズルズルと飲む本物の芸術を開発したその彼がいるという事実を除いて、全てが順調に進んで

います。最初は大したことはないと言いますが、しばらくすると少しいらいらします。"一部の人はいくつかのマナーを身に付ける必要がある"とあなたは自身で考えますが、あなたが散漫にならないように、それをきれいに払い落としてください。あなたの潜在的なビジネスパートナーとの会話は順調に進んでおり、そしてあなたはあなたのデザインのいくつかの余分な利点について 討論の真ん中にいたとき、突然あなたの後ろの男性があなたのテーブルの上にある カトラリーをガタガタさせる恐ろしいげっづを放します。マナーが全くないように見えるこの特異な個人に、すべての視線が突然と釘付けになるのです。室内はくすくす笑う嘲笑と、驚愕さと嫌悪感が組み合わせた笑いの音で満たされています。ついにレストランの 主人が出てきて、その男にあなたのタイプはレストランでは歓迎されないと言って出て行くように頼みます。

本当にすごいことは、この同じ男性が中国の文化を反映したレストランに座っていたなら、誰もまぶたをまばたきしないということです。事実、あなたがこれらのしぐさをしなかった場合、ホストと 女主人はがっかりするかもしれません。また、中国文化では、あなたがこれまでに会ったことのない人とは握手を求めようとしたり、また夕食を食べながら家族の問題について話したら、あなたは非常に無礼に思われるでしょう。⁴²

自分がどの文化や世界観から来たかによって、どのようにして同じアクションらが全く異なる方法で解釈されることができるというこ

⁴²<http://www.chinawestexchange.com/Chinese/Culture/customs.htm>

とに驚かされます。この事実は私たちが御神の王国対サタンの王国の二つの異なる文化を見ても違いはありません。

その基督教の信仰は、イエス・キリストという一つの土台を持っていますが、しかし、イエス、その名を取るグループの多くを調べながら、私たちは1つの土台の上に、非常に多くの矛盾が実在できるという事実を見つけることになり困惑しています。神の国の中への旅程は文化の移転と世界観の移転が伴われます。私たちの最後の章で、私たちは天国の方法で考えることを学ぶさいにしばしば直面する困難について説明しました。

基督教徒としての歩むことにおいて、最も大きな困難は、私たちが御神の言葉である、聖書にどのようにアプローチするかを中心に展開されています。私たちは私たちが成果と地位に教育を身につけてきた世の中から出てきましたが、しかし、私たちが御神の王国の中に移る変わるにつれて、私たちは自分の意見を明け渡し、御神の御霊に御神のお言葉を読む方法を教えてもらうことが絶対に重要なことです。悲しいことに、これはこのようなケースが多くではなく、基督教の信仰と歴史に見られる多くの矛盾と異端、口論は、合法的で親密な関係性に焦点を当てている天国の枠組みではなくデュラセルの枠組みで聖書を読むことから直接的に來ています。

イエス様はルカ10章に出てくる律法学者とのあの方の議論の中でこの点を指摘します。律法学者がイエスに "私が何をすれば永生を

得られますか?"とイエスに尋ねると、イエス様は "律法にはなんと書いてあるか?"と答えました。

さらに深い争点に入るためにその方は "あなたはどのよう読むのか?"⁴³ イエス様はあなたが何を読むかを聞いたのではありません; その方は、あなたはどのように読んだのか、あるいはあなたは読んだものをどのように解釈するのか? と聞かれます。これは、地上世界のデュラセルから天国の関係へと旅たちをしたいと希望しているすべての人に、核心的な質問です – どのように読むのですか?

律法学者がイエスに尋ねた永遠の命に関する質問は、キリスト教徒の歩みにおいて最も重要な質問の一つです。あなたが占めているポジションとあなたが混ざり合う人々は、この世の中におけるあなたの価値を示す強力な指標です。これとは対照的に、天の御国ではすべての人が御神の子であり、尊敬と尊厳に値するものです。私たちがその討論を追って いくと、私たちはその律法学者が後者よりも前者による聖書の解釈したいことに注目です。彼は言うことによってイエスに正しい答えを与えます。"心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。また、自分を愛するように、 あなたの隣り人を愛せよ』とあります。"

⁴⁴ イエス様は事実上に、"正確に、そのとおり 行いなさい。そうすれば、いのちが得られる"とおっしゃっていますが、関与したもの

⁴³ ルカの福音書 10:25,26

⁴⁴ ルカの福音書 10:27

の 完全な含蓄を悟った律法学者は、"では、わたしの隣り人とはだれのことですか？"と尋ねる ことによって、その意味をねじれさせようとしています。聖書の意味は単純ですが、デュラセルの影響下にある人間の心は理解しにくいように振る舞います。なぜなら、古いものを解放し、完全に新しいものを受け入れることを望まないからです。ここに、あんなに多くの生命のないキリスト教徒がいる根本的な理由がここに置かれています。彼らは キリストの王国を信じながらも、サタンの王国に従って生きていくにあたって、その結果、混乱と挫折、悪が生じているのです。

聖書は、恵みによって権能を与えられたキリスト教徒が十戒と調和して生きることをはっきりと教えているため、救いの争点についてキリスト教の信仰全体が混乱しています。しかしながら、わたしたちの多くは、御神と御神の子供たちの間で起こる約束された関係の記述として、十戒の中にある十戒に近づきます。

逆に言うと、そしてより一般的には、私たちは律法の要求事項を成し遂げることは

不可能だと見ている多数の人々がいますが、しかし、信仰関係の中に入るよりは、彼らは 御神の戒めを守っていくことが不可能だと宣言し、したがってキリストの中で勝利の自由を決して享受できません。あなたが実行することを追い求めても、追求していなくても、その争点は依然として関係よりは実績です。これらのグループのうちどちらも、私たちのために死んでくださったあの方との信仰に基

づいた関係の文脈で、十戒を抱きかかえない限り、天の王国には入れないでしょう。

反パフォーマンスの姿勢とキリスト教徒の歩みにおいて勝利の不可能性を採用する キリスト教のグループにとって、それはすぐに彼らが仕える神もまたパフォーマンスを行うことが出来ないことに続きます。このような流れと、認識のための世俗的な欲求を組み合わせると、文字通り 6 日間で世の中を創造する御神の能力を拒否するキリスト教の学者、教師、信者を探すことは驚くことではありません。律法教師が隣人を愛すべきだという 答えを出したのと同じように、しかし彼はその後質問を投げかけます。" わたしの隣り人とはだれのことですか? " このような非常に多くの学者が今日、" はい、私たちは6日間の 創造を信じていますが、彼らはどのような日ですか?"と言います。 邪悪さは常に聖書を 自分に合うようにひねる方法を探し見つけようとしキリストを信じながらも、しかし 世の中に従った生き方をするのです。その悪鬼たちもまたキリストを信じてこの世界に 従って生きています。

ひとたび、人々が新しい心を創造できる御神に対する信念を喪失し、聖書の明確な陳述について狡猾な質問をする方法を学んだ人がいると、家でそして教会で、男女の役割を拒絶するとともに同性愛をキリスト教の規範として抱きしめて受け入れることは非常に容易だと思うことについて、聖書は私たちの前にはっきりと明らかにしています。この概念は、天の御国ではなじみのない概念です。価値とは常にポジションではなく関係によるものです。

私たちは権力と地位のパフォーマンスの原則に合うように、ねじられ、回された聖書で 教えた後に教えることを羅列できますが、しかし、私たちがイエス様の追随者であると 主張するならば、私たちは私たち全てが来られたあの王国よりも、私たちはその方の王国の原則に従って聖書を解釈しようとする要点が明らかに作られたと思います。

第 16 章. もはやしもべではなく

その特別な時間の中の一つでした。私の 6 歳の息子と私は車で一緒に旅行していました。六歳の息子と私はその車に乗って一緒に旅行していました。私たちは、深くて有意義な 会話をしていたいましたし、うーん、それは大切な息子の経験が許す限りのことでした。私には、彼の頭の中で車輪が整然と回転しているのを見ることができました。私は彼が 非常に奥深い何かのあわや寸前であること感知したが、それが出てきました。" 知っているでしょう、パパ、私は時々パパが社長ならば仕事はるかにうまくいくと物事を思いますし、そして私がたまに社長だったこともあるでしょう。" " まあ、息子よ、それは確かに興味深い提案だな" と私は咳払いをして言った。彼の提案がなぜ欠陥があるのかに正当ないい理由を考えようとしていたために、しばらく 沈黙の時が続き、もし私が彼の提案の一つを考え出せなかったら、私たちは両方とも苦境に置かれることになるかもしれません。"まあ、それは、全く聖書がそれをする方法

を私たちに教えてくれる方法じゃないのよ息子よ。" "しかし、なぜパパは、いつも私に何をすべきかを言わなければならないのですか？" "まあ、息子よ、イエスさまが私にイエスのために、あなたに強い青年になる方法を教えるようにたのまれたのよ、それはその方が私の上司だから、私はその方が私にするように言われたとおりにしたほうがいいと思うんだ。"

育児は本当の学習曲線です。"息子、どうぞご飯を食べる中には座っていてね" "ああっ、不公平だな！" "スウィーティー、おもちゃを拾って片付けてね" "ああ、ママ、外に出て遊びたいよ" "わが息子よ、そろそろ寝る時間だよ" 泣いて、泣き言をし、わめき、"でも、あなたは今すぐ寝るつもりはないわ" なんて私がしなきゃいけないの？"

このすべてのルールと規定！あなたはいつもご両親が怪物だと思っているでしょう。なぜ子供たちは、彼らの消化を妨げないようにじっとテーブルに座ってゆっくり食べてほしいことを、あなたが望んでいることを理解できないのでしょうか？それともあなたは、彼らが年を取ったときにより組織化されより効率的にする方法を学ぶように、彼らがきれいに整理する方法を学ぶことを望んでいるのですか？

そして、子供たちは十分に睡眠をとることで親は彼らが病気にならないように予防 したがることをなぜ子供たちはありがたく思

わないでしょうか？ どうして？なぜなら、 彼らはただ人生の落とし穴や危険を知らないからです。

使徒パウロは、キリスト教の生活における私たちの旅を説明するために、このたとえを 取り上げています。

わたしの言う意味は、こうである。相続人が子供である間は、全財産の持ち主でありながら、僕となんの差別もなく、ガラテヤ人への手紙 4:1

パウロは、子供とその親との関係は、しもべと彼の主人との関係と何ら変わらないと描写しました。父親は息子を御神の国の原理に基づいて訓練させなければならないが、デュラセルの本性を持った息子はこの全ての訓練の理由を理解していません。彼の父が 彼に教える教訓の多くは彼の本性と反対であり、しばしばしもべであることと何ら変わらないように見える大変な仕事です。 少年は簡単に疑問に思うかもしれないが、"父はなぜ私が望む多くのことを出来ないように防ぐのか？ " 奴隷のように感じる。 "息子よ、これをして、あれはしてはいけないよ、それは公平ではないようだ！

この状況は、御神が私たちを神の御国に準備させようとしているとき、私たちに対する姿を完璧に描写しています。多くの人が御神の必要条件を対処しにくくて厳しく見つめ、よく疑問を投げかけます。 "なぜ神は私にこのようなことが起こったのですか、またはなぜキリスト教の生活はそんなに制限されているように見えるのですか？ "

また、教会へと合流する多くの人々が、まるで子供として残ったかに見え、しもべであることにただ満足しているようで、キリスト教徒としての生活の義務を果たし、彼らが彼らのその努力が報われることを願って生きている多くの人があります。このような人々は放蕩息子の物語の中で兄の感情にとらわれる危険にさらされていたのでした。

パウロは私たちに、私たちが多くの人生の困惑と御神が私たちに取
り扱うことに関する

質問から、どう解き放たれるかについて説明します。御神は私たちの御父であり、御神が私たちが御神の王国に入ることができるように準備をしていらっしゃって御神が私たちを強烈に愛しておられることを私たちが真に理解するときに、御神との関係が理に適い始めます。そのルールと規制は、もはや私たちが楽しむことを止めるための制限と境界とは 見なされていません。 ; その代わりに、彼らは私たちに対する御神の優しい敬意と、 私たちが御神の子供として私たちの完全な遺産を受け取ることを望むその方の熱望を明らかにする自由の扉になります。パウロはそれをこのように説明しています。

そして、それはキリストがいらっしゃる前の私たちのやり方法でした。(3) それと同じく、わたしたちも子供であった時には ; いわゆるこの世のもろもろの霊力の下に、縛られていた者であった。(4) しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせ

て、おつかわしになった。(5) それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。(6) このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「アバ、父よ」と呼ぶ御子の霊を送って下さったのである。(7) したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。(8) 神を知らなかった当時、あなたがたは、本来神ならぬ神々の奴隷になっていた。 ガラテヤ人への手紙 4:3-8

これらは聖書の中で最も美しい言葉の一つです。われわれが御神の子供としての縁組を 確保したとき、私たちがイエス様の犠牲を認識することによって、私たちはサタンの王国の奴隷制度から解放されます。私たちはデュラセルの暴政から解放され、私たちは御神の息子と娘として、強く高貴に立ち、イエス様のおかげで私たちはいつもその方の愛する 子供になることを知っています。御神の御霊があなたの心の中で大声で叫んだことが ありますか？ "アバ、父よ" "パパ、パパ" あなたはその方の愛によってとても安全を 感じて、その方の腕の中に駆けつけることができ、そして、あなたは歓迎されるだけでなく、その方に深く望まれていることを知っていますか？ あなたは、御父が近くにいるときその光の御父へと、子供のような崇拜で戻って帰ったことがありますか？ この自由を経験するまで、あなたは明日退職金が発給され支給されるという不確実性を抱えて生きているしもべとして常に残るでしょう。

御神の子供として、私たちの相続は確かなものです。私たちは大胆にその方のところに来て私たちの要請ができます; その方は私たちにとって何が最善であるかを知っていらっしやると自信を持って信頼できます。人生で、私たちに起こるすべてのことは、御神の御国の価値をより深く理解できるように成長することに役に立ち、デュラセルの奴隷状態を打ち破ることです。

あなたは第 6 章で私たちは、御神が人類を御神の愛情のこもった抱擁に再び連れ戻す ことを図ったさいに御神が直面した信じられないほどの課業について話し合ったことを 記憶 するでしょう。ここにもう一度その要点を説明します。

1. 人類に彼らの絶望的な状況を真実に認識できる知恵を与える手段は彼らの選択の自由を違反せずに彼らのために正しい方向に影響を受けるやり方をともに提供します。
2. 彼らに御神の品性と王国に対して誤った認識を持っていましたことを 彼らに示し、そして、何らかの形でその方が彼らを本当に愛していた ことを彼らに何とかして示す方法。
3. 彼らの罪の意識と不安感を取り除き、御神の子供としての真の アイデンティティと価値を復元する方法。

4. 彼らの目的意識と彼らの存在理由または彼らの運命を取り戻すための方法.
5. 上記のすべてに時間が必要としました。 アダムとエバは彼ら自身の命を 没収されていたので、彼らには選択して決定する時間を与えるために 生命維持システムが必要でした。
6. これらすべてを行う間、御神は正義感を維持しなければなりません。 その方は彼らの反乱を不問に付し、それがオーケーであるということが できません。 御神の慈悲の中にいる間には御神は、彼らがした選択の 完全な結果が彼らに降りかかることは許さないが、アダムとエバは、 彼らが何をしたかの過ちを理解し始めるために彼らの選択の結果を理解しなければなりません。

イエスさまの業のその方のミニストリーの中で、死と復活は六つの課題すべてに対する解決策を提供してきました。 誰が、キリストの十字架の力を理解できるでしょうか？それは単純に私たちの誤った行いを取り外すことよりもずっとはるかに深く；それははるかに、もっと深いです。

今すぐひざまずいて十字架を見て、デュラセルからのあなたの解放を見てみませんか？ あなたはその方が深く敬愛し最も愛する子どもであるという天からの音声を聞くことが できますか？ あなた

の全ての罪悪感と恨みと自尊心と苦しみをその方の上に 荷を下ろしてみませんか？ その方の喜びに満ちた充満さが、今まさにあなたの魂を氾濫させる ことをただ許可するだけしてください。すでにやっていなければ、あなたはできます。デュラセルから逃れる秘訣は、これ以上しもべではなく御神の息子や娘になることです。

第 17 章. バビロンの陥落

それは稲妻のように打ちました。ドイツの機甲師団はオランダとフランス全域を横切って疾走し、一夜にしてこれらの国々はナチス戦争軍事力の鉄拳統治の下で閉じ込められました。占領された国での暮らすというのは、萎んでいく経験です。私の父はオランダ北部のアセン町でこの時期を切り抜けて生きてきました。

その男たちはドイツの戦争軍事力へ奉仕するように圧迫されました。通報者たちは恐ろしい秘密警察に彼らを通報する準備ができていたし、そしていつでも彼らはドアのノックを受けるかも知れなくて、愛する人が引きずり出されて、二度と見られないかもしれません。ナチス政権は、すべてのライバルを排除することであり恐怖を通じて支配し、その力を 悪魔のような満足感をもって権力を誇示する統制精神であるデュラセルのすべての特徴を現わしています。

資源を剥奪され枯渇し、それを縛った抑圧的な鎖に疲れきった、ホラントは 1944 年の冬に備えることができませんでした。彼らは彼らが戻ってきたとき、家がまきとして剥ぎ取られたので、もはやそこに家がないことを恐れて家を出ることができませんでした。都市では数千人もが飢えと寒さで亡くなりました。この悪夢はどれほど続くでしょうか？

ついにドイツ軍は撤退し橋を爆破し、軍需品を破壊し、可能な限りだけ多くの破壊を残しました。

私の父は、街で踊っているすべての人と食糧配給を配っていた連合軍兵士たちを覚えています。それが終わったと信じるのはほとんど、難しすぎました。ついに自由!

カインの霊は依然として今も生き続けており、そしてヨハネの黙示録によると、キリストがこの統制権を返す直前に、この不安定で嫉妬深く無価値な霊が滅亡する前に最後に権威を現すことになる」と記されています。ヨハネは、それを海から現れた七つの頭と十本の角を持つ獣として描写しています。

わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。
それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。 ヨハネ
の黙示録 13:1

この獣には、地上のすべての民族に対して大きな権能と権勢の権限を与えられ、そして 世界中がその獣の権能に彼ら自身を崇拜し、屈服します。⁴⁵ この獣の権能は、天と地を 造られた御神と私たちの関係に立ち向かっています。それは、それ自体に敬拝を引き寄せようとするものです。

この獣が全世界中をそれほど容易にそれに従えるように納得させる理由は、それは、それがデュラセルのバッテリーで動くからです。それは私たち誰もが自然に話す言語を 話します。それは私たちが何を達成し何を実行するかのことによって私たちの アイデンティティを求めることを激励し、私たちなりの条件で御神に会い、私たち自分の無血の犠牲を持って来て、御神が私たちの敬拝を応えて受け入れてくれることを期待しています。世界のほとんどはすでにこの獣の権能の下にありますが、それに気付いて いません。世界が自由の原則を拒否し、恐れと武力を通じて全世界的な統制に戻るとき、それは単純に私たちすべての人の心の奥深くに潜むことの外面的な現れであるでしょう。

御神はぼんやりと座っていらっしゃらず何もなさっているわけではありません。彼は この獣のような力に降伏しないように世界に警告するために必死の最終のメッセージを 送ります。それは3つのメッセージの形でやってきます。最初のメッセージは人類に

⁴⁵ ヨハネの黙示録 13:2,7

注意を喚起させ、天と地を造られた御神を敬拝をするべきであるという点を悟らせて くれます。それは私たちにイエス様の犠牲を指し示し、カインのささげ物が決して御神に 受け入れられないことを私たちに思い起こさせるのです。私たちの救いが子羊の血を通じて私たちのために代価を払ったので、私たちは決して御神の好意を受けることは できません。⁴⁶

それから、御神はわれわれに非常に重要な真理を思い起こさせてくれます。その方はそれをこの言語で表現しました。

また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、“倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者”。

ヨハネの黙示録 14:8

なぜ御神はバビロンという用語を使われるのでしょうか？私たちが聖書に目を通すと、バビロンの街を築いたのはニムロデだということを見つけられます。ニムロデは興味深いキャラクターでした。聖書は私たちに“彼の国は最初シナルの地にあるバベル、エレク、アカデ、カルネであった”と知らせてくれます。⁴⁷ ニムロデは、彼自身の王国を確立した最初の記録された人間であります。またニムロデがある時点で、彼の母親と結婚した ことにも注目するの

⁴⁶ ヨハネの黙示録 14:6,7

⁴⁷ 創世記 10:10 共同訳

興味深いです - 本当に機能障害のある家族です！ ニムロデが彼の母親と結婚するために父親を殺したといういくつかの暗示もあります。 真相は何であれ、ニムロデの家庭は家族関係が神聖である御神の王国の原理に基づいたものではありませんでした。

ニムロデの家庭生活におけるセキュリティの欠如は非常に大きかったので、彼は自分が 誰に属しているよりむしろ、彼が何をしていたかによって知られ始めました。創世記第 10 章では、聖書は人類の系譜を列挙しています。それぞれの男性は彼の父親が誰なのかによって身元が確認されました。彼らのアイデンティティは、彼らの家族関係によって確立されました。これが御神の王国の運営される方式です。ニムロデはしかし、強力な狩猟者であり、強力な支配者であることが知られるようになりました。

彼は主の前において（逆らって）⁴⁸勇ましい狩人でした。それが言われている理由として、ニムロドのように、主の前において（逆らって）勇ましい狩人であるからです。彼の王国の最初の中心は、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シンアルの地にでした。彼はその地からアッシリアに進み、ニネベ、レホボト・イル、カラ、とニネベとカラの間にレセンを築いてました。そこは偉大な都市です。創世記 10：9-12

⁴⁸ この前に、この単語を（逆らって）入れて読むことができます。

ニムロデは彼の不安感に駆られ、自分を証明する必要性を感じました。そこで彼は都市を建設し始め、それから彼は近隣の家族部族を征服するために軍隊を作り始めました。目の肥えた歴史家は次のように記録しています。

かつての統治者の権威は親族である気持ちということに基づいており、首長の優勢は親の統制に対するイメージでした。それとは逆にニムロデは領土の主権者であり、人間がそれらの居住民である限り、個人的なつながりを問わずにいました。今までのところでは拡大された部族-家族-社会があって; 今では、国民、政治的共同体-国家がありました。⁴⁹

今日、ほとんど全世界がニムロデの足跡をたどってきました。今日の政府は政治的で領土的なものであり、部族的で遊牧民的なものではありません。

ニムロデが、この政治的国家ベースのシステムを構築するために順に従った段階に注目するのは興味深いことです。御神は、彼が建設した最初の都市によってこのシステムを標識化され、それはバビロンと呼ばれました。バビロンがどのように人間の心の中で発達するかの本質に注目してください。

1. それは父親と疎遠になった子供たちから始まります。

⁴⁹ A.T.ジョーンズ、聖書の帝国(レビューおよびヘラルド出版 1904)p51

2. それからその結果として生じる不安感のために、彼らは絶えず承認を求めています。
3. この承認への渴望は、しばしばこれらの人々を、彼らの空虚さと無価値さを相殺するために必死の手段に駆り立てます。

これこそが、バビロンのぶどう酒がとてもやみつきにさせる中毒性のある秘密の成分です。私たちの中でどれだけ多くの人が、役に立たないという感情や、自分には必要なものを 備えていることを他人に証明しようという決意に悩まされたことがいない人はどれほどいるのでしょうか？ 私たちの中でどれだけ多くの人が御神を喜ばせようとする私たちの 努力が全面的に失敗しただけで、もうこれ以上試みる意味がないと感じたことがあるのはどれくらいにいますでしょうか？ 私たちの中で職場、学校、または教会で権力争いに巻き込まれ、自己防衛の手段として私たち自分たちの小さな王国を拡大しようとする試みに 怒った言葉を話したりまたは切り裂く言葉を聞いたり、言葉を切ったりしたことがある 人はどれほどいるのでしょうか？ 全世界がこの杯から飲んでいるのではないのでしょうか？ もし私たちがそのように行動するなら、それじゃあ私たちは本当にバビロンの奴隷ではないのでしょうか？

それではバビロンの没落は何を意味するのでしょうか？ 「バビロンは倒れて」という一節は、エレミヤ51章8節から直接出てきたもので、エレミヤ50節と51節からその文脈を見いだせます。

エレミヤ50章で、御神はその方の民を、道に迷い安息所を忘れた道に迷った羊と描写しています。御神の民は文字通りバビロンによって捕らえられている、彼らの多くが彼らの 真の故郷、彼らの安息所も忘れていきます。

しかし、御神はその方の子供たちを忘れていません。 その方は次の美しい約束をします：

万軍の主はこう言われる、イスラエルの民とユダの民は共にしえたげられている。彼らをとりにした者はみな彼らを固く守って釈放することを拒む。(34) 彼らをあがなう者は強く、その名は万軍の主といわれる。彼は必ず彼らの訴えをただし、この地に安きを与えるが、バビロンに住む者には不安を与えられる。 エレミヤ書 50:33-34

そして第 51 章で、私たちは次を読みます。

バビロンのうちからのがれ出て、おのおのその命を救え。その罰にまきこまれて断ち滅ぼされてはならない。今は主があだを返される時だから、それに報復をされるのである。(7) バビロンは主の手のうちにある金の杯であって、すべての地を酔わせた。国々はその酒を飲んだので、国々は狂った。(8) バビロンはたちまち倒れて破れた。これがために嘆け。その傷のために乳香を取れ。あるい

は、いえるかも知れない。(9) われわれはバビロンをいやそうとしたが、これはいえなかった。われわれはこれを捨てて、おのおの自分の国に帰ろう。その罰が天に達し、雲にまで及んでいるからだ。(10) 主はわれわれの正しいことを明らかにされた。さあ、われわれはシオンで、われわれの神、主のみわざを告げ示そう。 エレミヤ書 51:6-10

この章の文脈で見ると、御神の民はバビロンによって捕虜となっています。彼らが誤った道に導かれましたが、御神は彼らを救い出して導きますのは、彼らがふさわしいからではなくその方の子供だからです。

"バビロンは倒れた" という言葉は裁きと非難に対する声明ではありますが、それと同時に バビロンがイスラエルを捕虜にしていたため、イスラエルに対する自由の約束でも あります。

第二の天使のメッセージに含まれているバビロンの陥落は、霊的イスラエルを不安定と 無価値、そして私たちが罪を犯すように追い込む統制の精神から解放します。

私たちが愛する人に受け入れられ、そのことによって私たちがイエス様の犠牲を通じて 確かに御神の子供であることを認識した時、

私たちのすべての不安と無価値さのすべてが運び去られて、御神の子供として自由に立つことができるのです。

三天使のメッセージはエリヤのメッセージとも呼ばれて、このメッセージの最後の部分であるマラギの 4 章 6 節で、御神は、父の心をその子供たちに、子供たちの心をその父に 向きを変えさせるということをおしゃったのは偶然ではありません。つまり、このメッセージの力は、私たちが御神の子供であり、私たちがした何かことによってではなく、イエスさまだけが私たちのために行ってくださいったことによって、私たちが御神の子供で あることを、真に信じるときこそ解放されるのです。

バビロンと彼女のデュラセルの原則を捨てて、もはやしもべとして残っていないで、しかし "アバ、父" を呼び泣き、あなたがその方の最愛の子供であることを知ってください。イエス・キリストを通じて、私たちは自由です。

毎日、何百万人という数の人々がうつ病と闘っています。継続して維持していかなければならないモチベーションはますます苦しくなり、多くの人が脱出口を探しています。

無価値の有毒な影響は、私たち自身は何かが上手ではなく、あまり好まれておらず、役に立たないという自分自身に対する評価から来ています。ほとんどのセルフヘルプ関連書籍は、人々が愛し、甘やかし、彼らが特別であるということを彼ら自分自身に伝えることを奨励することによって、この問題に対処しようとしています。

この方法は、祝福に対する人間の本質的な必要性を完全に迂回します。あなたの人生に祝福の言葉を話しかけてくれる親のような存在やメンター。あなたが尊敬し尊重する誰かからに愛されていると言われるというこの強力な経験に取って代わるものはありません。

天にいらっしゃる私たちの御父はこれを毎日私たちに伝えたいですが、サタンは世の中の多くの人々が他の所から価値を見いだすように盲目にさせて、御父のその素晴らしい祝福である、あなたはその方の最愛の子供であることに耳を貸さなくなるようにしてしまったのです。

